

令和4年度（2022年度）
の経営状況を報告します

すいすいレポート

2023

SUI SUI
REPORT



SPWU

吹田市水道部

SUITA Public Water Utility

水道事業の仕組み

Point

なんで
水道料金
が必要なの？

公共の福祉と経済性の両立が必要 なので

独立採算制が原則

事業経営に必要な費用を

水道料金収入

で、まかなっています。

水を
つくる



浄水処理

河川水や地下水を原水として良質な水道水をつくります。



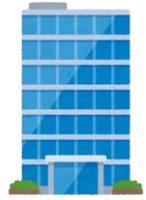
水質試験

水道水の安全性をチェックします。



建設改良工事(水道工事)を行うために**お金を借ります**。

国・金融機関



健全な経営に努め、
借りた**お金を返します**。

水道部



水道料金をお支払い
いただきます。

市民のみなさまからいただいた水道料金は、「水をつくる」、「水をおくる」ために使用しています。

水道管の工事

送水管・配水管の布設や維持管理を行い、大切なライフラインを守ります。



水を
おくる

市民の
みなさま

安全で安心な水

まとめると

水道事業

清浄

安全で
安心な水

豊富

24時間
365日

低廉

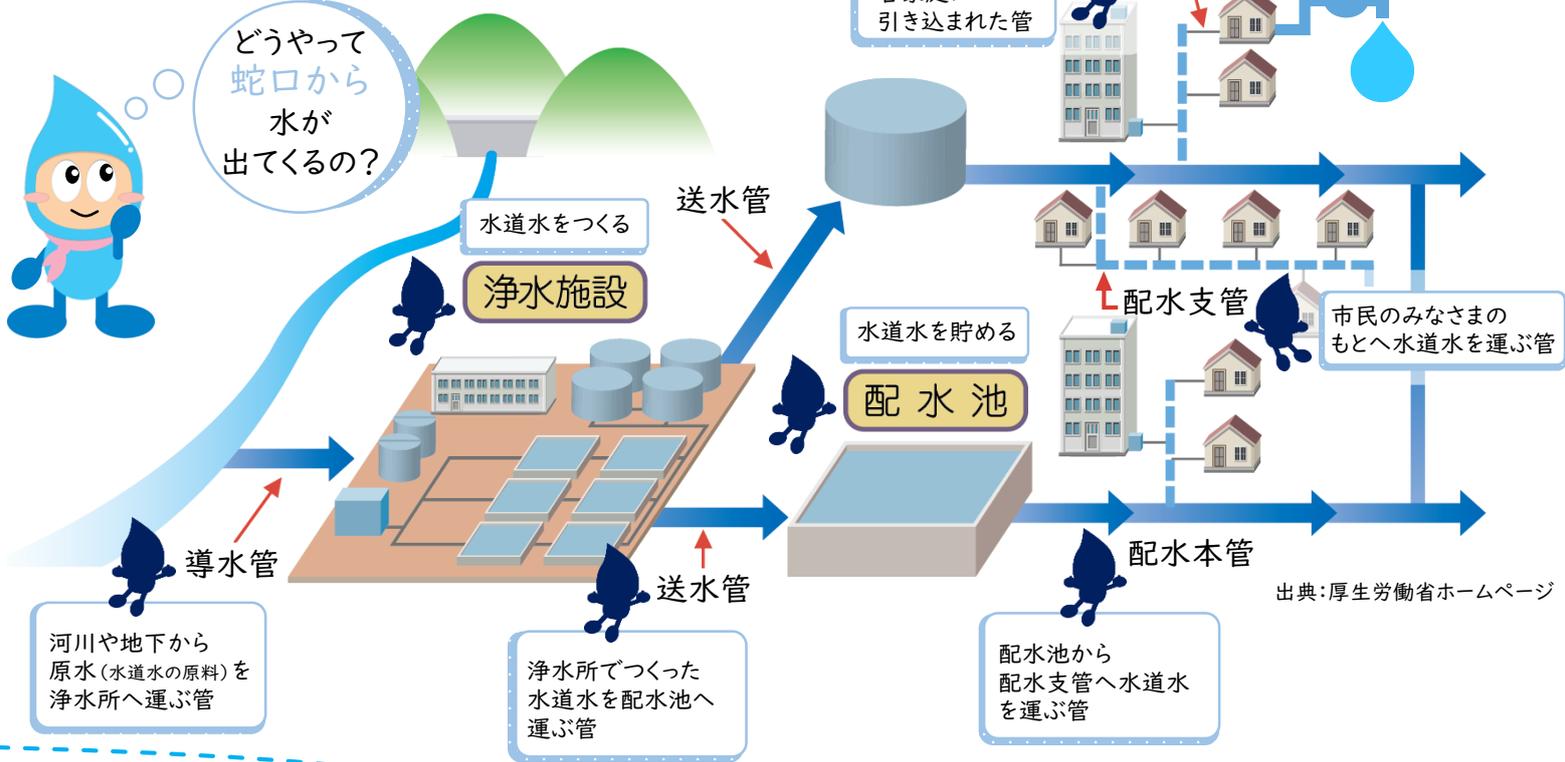
適正な
水道料金

地方公営企業^{*}として、いつでも安心して使用していただける水を、効率的な経営のもと適正な料金で安定して提供することが、水道事業者の使命です。

そして、これからも
市民とともに
水道事業を守り育み、
未来へ
つないでいきます。



水道システム



基幹管路* … 水道システムを構成する重要な管路
導水管 + 送水管 + 配水本管

主に、市域南部には泉浄水所と片山浄水所で作った水道水を配水し、市域北部には大阪広域水道企業団からの受水により配水しています。

市内に布設されている水道管の延長はおよそ**739**kmです。



※豊中市との配水場の共同化について
 豊中市の柿ノ木配水場の共同化に関する協定に基づき、蓮間配水場からポンプ圧送で供給していた、蓮間高区配水区域(青山台及び藤白台の一部)を柿ノ木配水場からの配水に切り替えました。【令和4年4月】

- 大阪広域水道企業団送水管
- 送水管(浄水所・配水場連絡等)
- 片山浄水所・泉浄水所連絡管
- 北部地域
大阪広域水道企業団水
- 南部地域(片山浄水所配水区域)
大阪広域水道企業団水と自己水(地下水)の混合
- 南部地域(泉浄水所配水区域)
自己水(地下水と淀川表流水の混合)



目次

第1章

吹田市水道事業の業務状況

1

1. 給水人口と給水戸数 2
2. 配水量と給水量 2
3. 決算状況 3
4. 収益的収支と単年度純利益 4
5. 資本的収支と不足額 4
6. 決算の概要 5

第2章

施策・事業の進捗状況

6

1. 基本理念と4つの基本方針 7
2. 基本方針に基づく施策・事業 9
 - 安全 ～安全で安心できる水道水の供給～ 9
 - (1) 水質検査の実績 10
 - (2) 鉛製給水管の解消に向けた取組状況 10
 - (3) 給水方式の状況 10
 - (4) 各事業における実績と評価 11
 - 強靱 ～災害に強く、安定して供給できる
水道施設・体制の構築～ 13
 - (1) 自己水と依存水 14
 - (2) 管路の整備状況 14
 - (3) 管路に関する4つの指標 14
 - (4) 災害時給水拠点と災害時給水所 15
 - (5) 各事業における実績と評価 17
 - 持続 ～将来にわたり持続可能な
水道事業の経営～ 21
 - (1) 健全な水道事業経営のための財政状況 22
 - (2) 職員数と人件費 22
 - (3) 省エネルギーの推進 22
 - (4) 各事業における実績と評価 23

地域 ～吹田らしさを活かした 市民に身近な水道事業の運営～	26
(1) 主な広報・広聴活動の実績	27
(2) 市民サービス充実の取組状況	28
(3) 各事業における実績と評価	29

第3章

経営指標の状況

32

1. 収益性(収支の状況)に関する項目	33
2. 財務比率に関する項目	33
3. 施設の効率性(稼働状況)に関する項目	34
4. 生産性(職員数と事業の状況との関係)に関する項目	34
5. 料金に関する項目	35
6. 費用に関する項目	35

参考資料

36

資料1 建設改良工事の概況	37
資料2 「すいすいビジョン2029」管理指標	41
資料3 用語集	43



吹田市水道部の
ホームページから



ぜひ、「すいすいビジョン2029」
と合わせてご覧ください。

すいすいレポートとは…

すいすいレポートは、吹田市水道事業の経営状況の分析や基本計画「すいすいビジョン2029」で掲げた施策の実施状況等を取りまとめたものです。市民のみなさまに、水道事業に対する理解をより一層深めていただくため、毎年度作成します。



(注1) 本レポートにおける金額・構成比等は四捨五入しているため、合計欄の数字と内訳の合計が一致しないことがあります。

(注2) 本文中の「*」印を付した語句は、参考資料「資料3 用語集」に説明を記載しています。



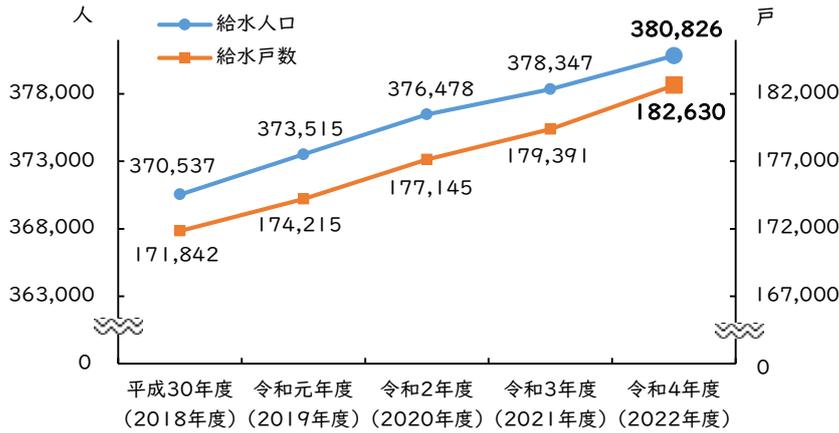
第1章

吹田市水道事業の業務状況

1. 給水人口と給水戸数
2. 配水量と給水量
3. 決算状況
4. 収益的収支と単年度純利益
5. 資本的収支と不足額
6. 決算の概要

1. 給水人口と給水戸数

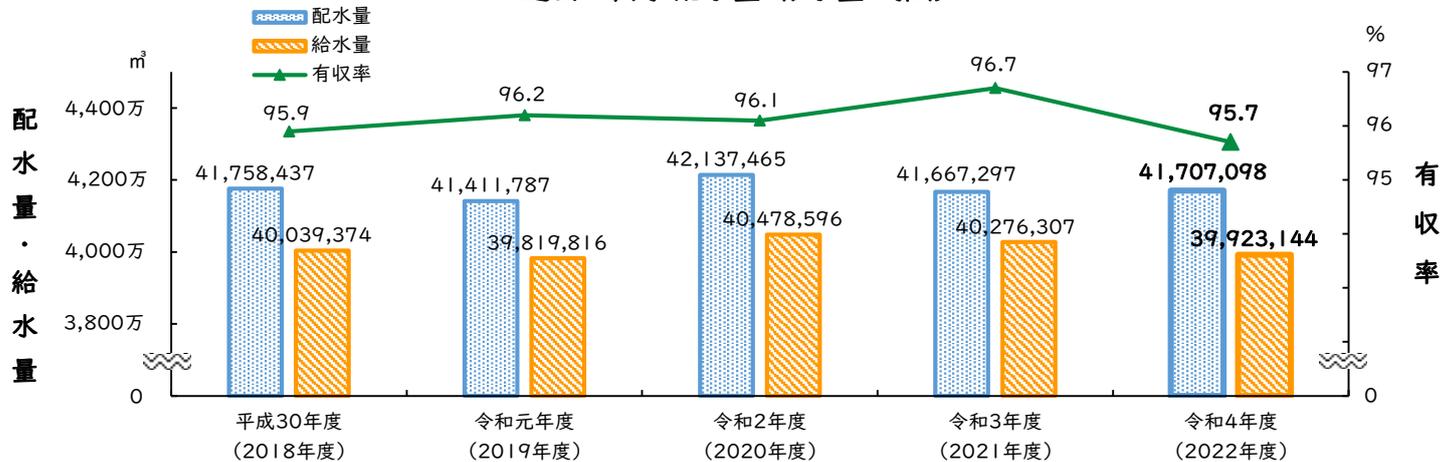
過去5年間 給水人口・給水戸数の推移



令和4年度(2022年度)末の給水人口*は380,826人で、前年度と比較して2,479人(0.7%)増加しています。
また、給水戸数は、182,630戸で3,239戸(1.8%)増加しています。

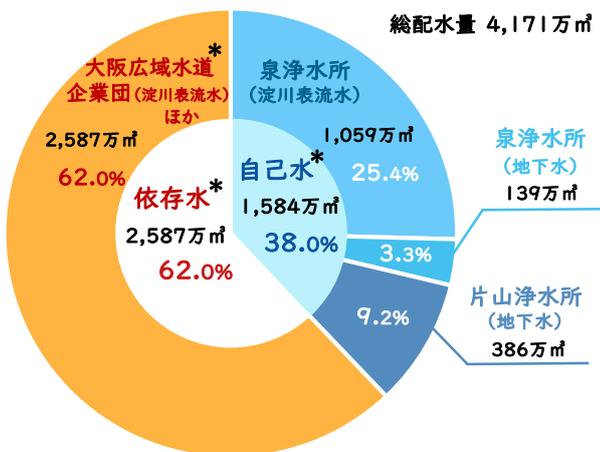
2. 配水量と給水量

過去5年間 配水量・給水量の推移

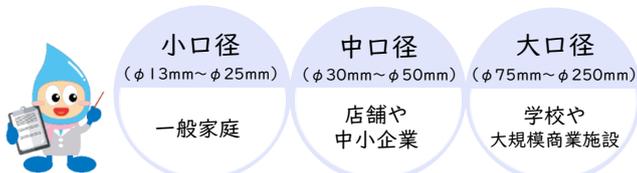


令和4年度(2022年度)実績

配水量の内訳



メーター口径別 主な使用用途



配水量*

配水池などから配水管に送り出された水量

41,707,098m³となり、前年度と比較して39,801m³(0.1%)増加

給水量* (有収水量)

みなさまにお届けする水量のうち、料金徴収の対象となる水量

39,923,144m³となり、前年度と比較して353,163m³(0.9%)減少

有収率*

送り出した水が、どの程度料金収入に反映しているかを示すもの

95.7%となり、前年度と比較して1.0ポイント減少

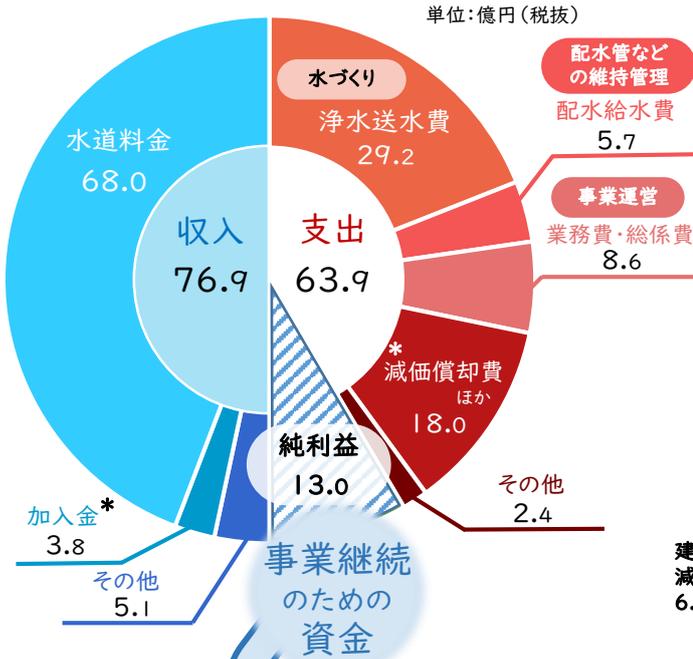
令和4年度(2022年度)は、前年度と比較して、中・大口径の給水量は増加したものの、小口径の給水量は減少しており、全体として減少しました。

在宅率の上昇などに伴う小口径の水量増加といった、コロナ禍の影響により、変化していた水需要構造が、社会活動の再開とともに緩やかにコロナ禍前の状況に戻りつつあります。

3. 決算状況

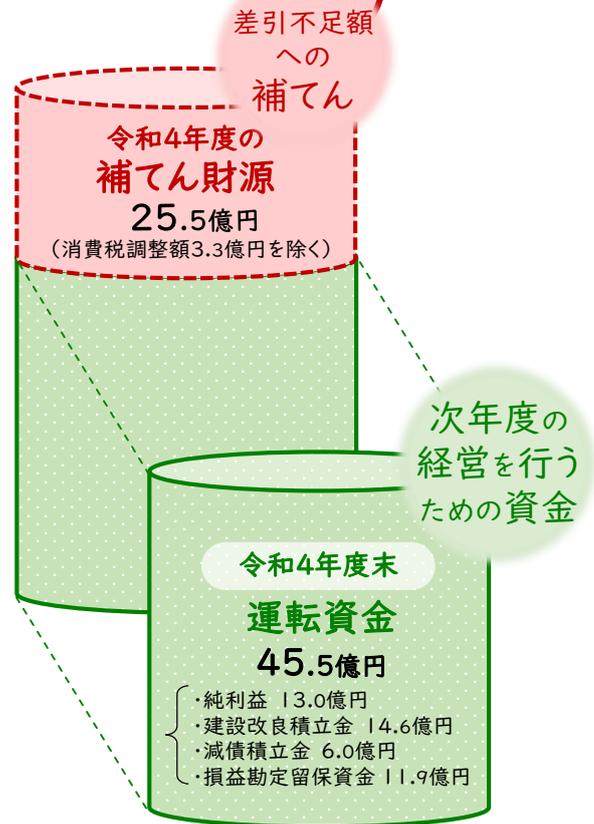
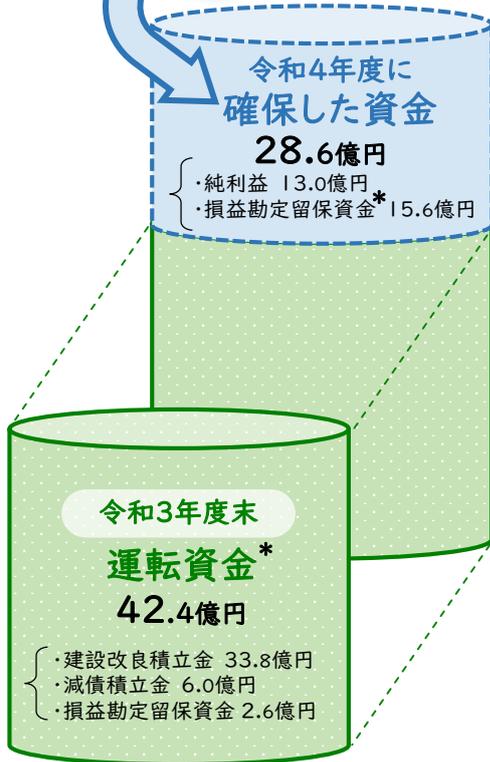
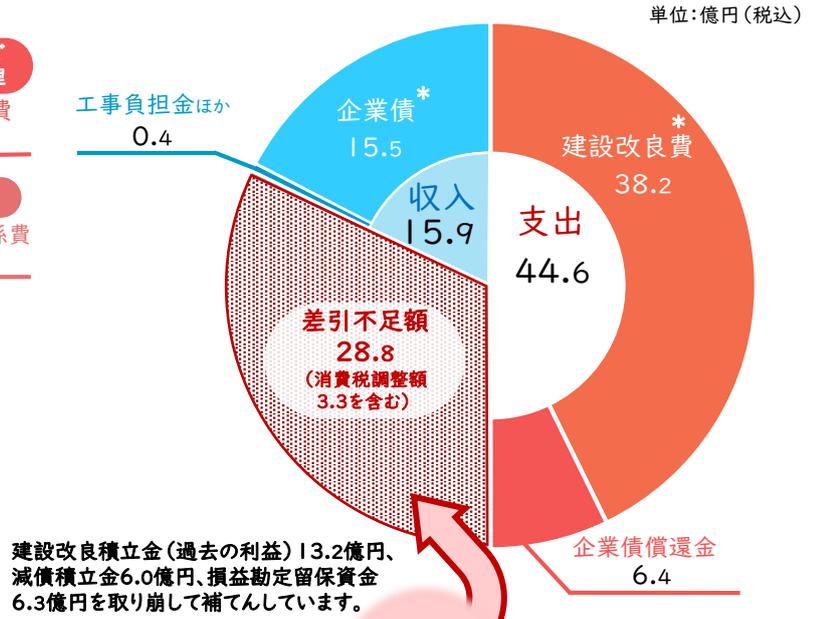
水道水をつくり、おくるための収支

収益的収支*の内訳



水道施設を整備するための収支

資本的収支*の内訳



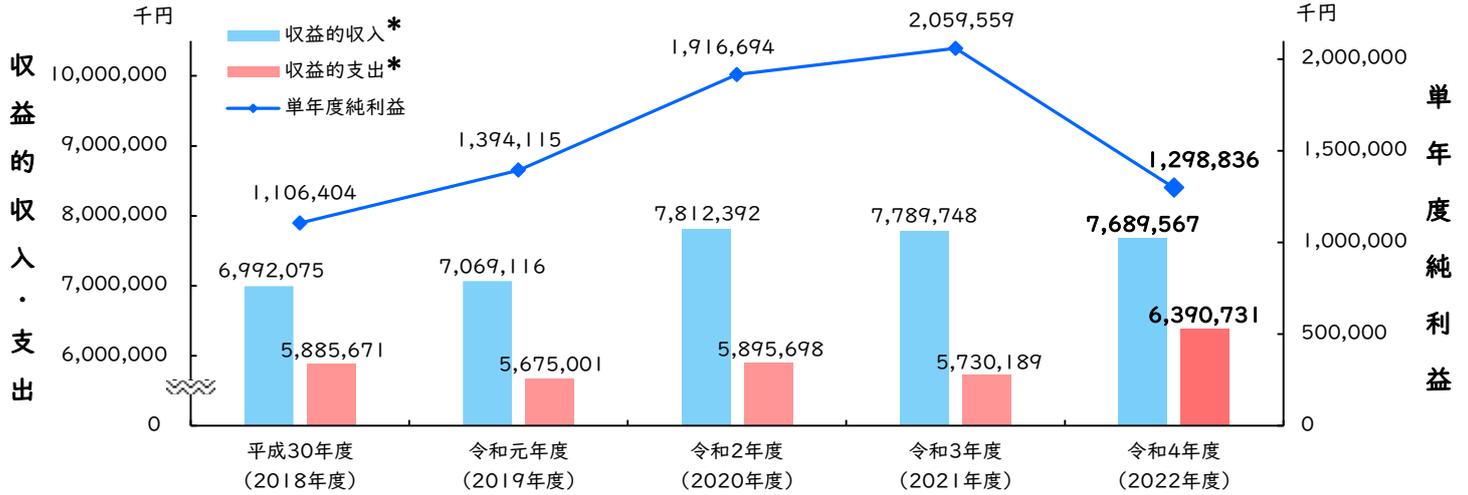
(税抜)

令和4年度(2022年度)は収益的収支面において、純利益12億9,883万6千円と減価償却費等の損益勘定留保資金(長期前受金戻入2億815万4千円を調整後)15億5,920万3千円により28億5,803万9千円の資金を確保しました。資本的収支面では、一部の建設改良工事を翌年度に繰り越したことにより25億4,652万3千円の資金不足となりました。

令和4年度(2022年度)末の運転資金は、前年度と比較して、3億1,151万6千円(7.4%)増の45億4,858万1千円となりました。

4. 収益的収支と単年度純利益

過去5年間 収益的収支と単年度純利益の推移(税抜)



収益的収入 76億8,956万6,706円となり、前年度と比較して1億18万1,520円(1.3%)減少

収益的支出 63億9,073万833円となり、前年度と比較して6億6,054万2,210円(11.5%)増加

収入のポイント

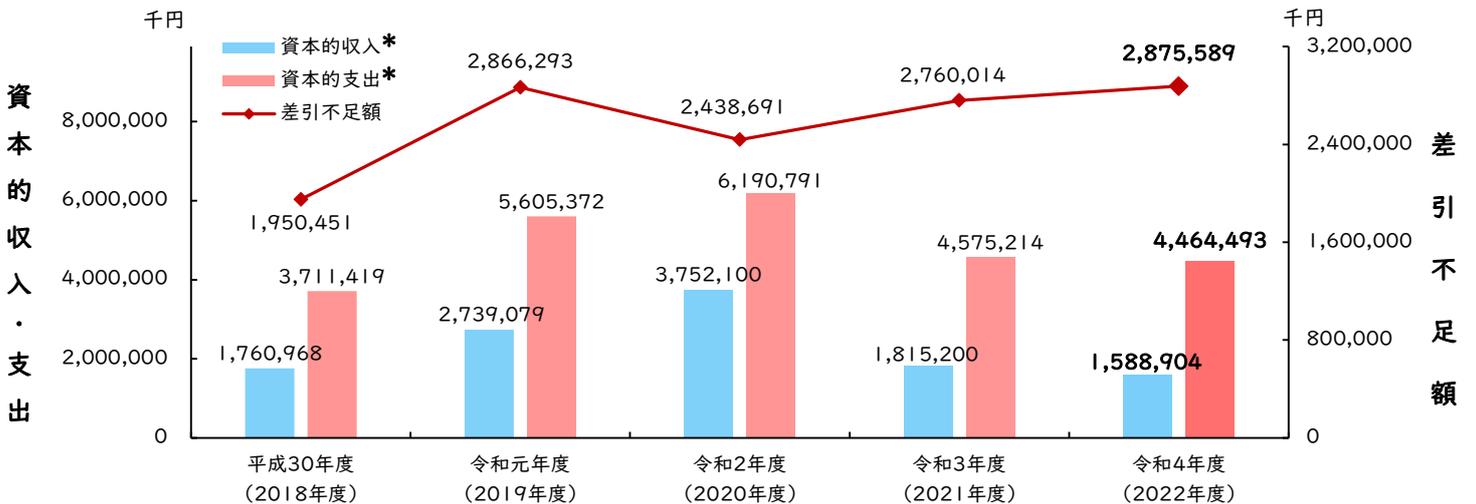
一般家庭などで主に使用されている小口径の水量が減少したことに伴い、全体の給水量が減少し、収入の根幹となる給水収益が減少しました。

支出のポイント

片山浄水所新施設の本格稼働や蓮間配水場の機能停止などにより、減価償却費及び固定資産除却費が大幅に増加したほか、電力価格の上昇により、動力費についても大幅に増加しました。

5. 資本的収支と不足額

過去5年間 資本的収支と不足額の推移(税込)



支出のポイント

建設改良工事を行う費用が支出額の大部分を占めており、水道管の工事に27億7,216万8,195円(負担金を除く)、浄水所・配水場の工事に5億8,967万230円を支出しました。

財源のポイント

建設改良工事の財源として、企業債の借入れ15億5,000万円のほか、減債積立金や建設改良積立金などの自己資金を充当しました。

6. 決算の概要

(1) 収益的収支

(単位:千円、税抜、%)

科目	令和4年度 (2022年度) 決算額	令和3年度 (2021年度) 決算額	対前年度 比率
水道事業収益	7,689,567	7,789,748	△ 1.3
給水収益	6,801,271	6,824,885	△ 0.3
加入金	375,750	459,250	△ 18.2
長期前受金戻入	208,154	164,355	26.6
特別利益	0	0	-
その他	304,392	341,258	△ 10.8
水道事業費用	6,390,731	5,730,189	11.5
人件費	1,053,349	1,063,973	△ 1.0
受水費	1,862,417	1,906,436	△ 2.3
動力費	259,866	160,081	62.3
修繕費	97,783	109,593	△ 10.8
委託料	579,016	611,251	△ 5.3
材料費	18,427	17,606	4.7
工事請負費	28,289	26,177	8.1
路面復旧費	100,256	149,569	△ 33.0
賃借料	138,189	135,733	1.8
負担金	13,057	3,401	283.9
減価償却費等	1,803,730	1,113,302	62.0
支払利息	172,883	167,153	3.4
その他	263,469	265,914	△ 0.9
特別損失	0	0	-
当年度純利益	1,298,836	2,059,559	-

(2) 資本的収支

(単位:千円、税込、%)

科目	令和4年度 (2022年度) 決算額	令和3年度 (2021年度) 決算額	対前年度 比率
資本的収入	1,588,904	1,815,200	△ 12.5
企業債	1,550,000	1,780,000	△ 12.9
工事負担金	37,810	35,200	7.4
開発負担金	0	0	-
固定資産 売却代金	0	0	-
国庫補助金	1,094	0	皆増
資本的支出	4,464,493	4,575,214	△ 2.4
事務費	179,183	165,126	8.5
工事費	3,574,622	3,657,739	△ 2.3
量水器	5,207	6,996	△ 25.6
車両運搬具	0	0	-
工具器具備品	62,116	112,802	△ 44.9
企業債償還金	643,365	632,551	1.7
開発負担金 返還金	0	0	-
差引不足額(△)	△ 2,875,589	△ 2,760,014	-

(3) 業務量

項目	令和4年度 (2022年度)	令和3年度 (2021年度)	対前年度 比率
総配水量	41,707,098 m ³	41,667,297 m ³	0.1 %
有収水量	39,923,144 m ³	40,276,307 m ³	△ 0.9 %
給水人口	380,826 人	378,347 人	0.7 %
給水戸数	182,630 戸	179,391 戸	1.8 %



第2章

施策・事業の進捗状況

1. 基本理念と4つの基本方針

2. 基本方針に基づく施策・事業

- **安全** ～安全で安心できる水道水の供給～
- **強靱** ～災害に強く、安定して供給できる水道施設・体制の構築～
- **持続** ～将来にわたり持続可能な水道事業の経営～
- **地域** ～吹田らしさを活かした市民に身近な水道事業の運営～

1. 基本理念と4つの基本方針

「未来につなぐ 市民と育む 信頼のすいた水道」という基本理念を実現するために、「安全」、「強靱」、「持続」、「地域」の4つの基本方針を柱として11の施策を掲げ、31の事業を推進しています。

基本理念

未来につなぐ 市民と育む 信頼のすいた水道

基本方針 I

安全

～安全で安心できる水道水の供給～



施策

1. 飲み水としての安全を守る

事業

- (1) 高水準な浄水処理の維持・向上
- (2) 鉛製給水管^{*}の対策
- (3) 直結給水の推進、給水装置及び貯水槽水道の適正管理

基本方針 II

強靱

～災害に強く、安定して供給できる
水道施設・体制の構築～



施策

1. ふたつの水源を守り充実を

2. 片山浄水所を中心とした整備を進める

3. 浄水所・配水場の整備と管理の向上を

4. 水道管の整備と管理の向上を

5. 災害に強い体制を築く

事業

- (1) 地下水源の充実
- (2) 淀川表流水の維持
- (1) 片山浄水所水処理施設の更新
- (2) 片山浄水所の場内整備
- (3) 片山浄水所・泉浄水所連絡管の整備
- (4) 南千里分岐・片山浄水所送水管の整備
- (1) 浄配水施設の更新・耐震化
- (2) 浄配水施設の維持・管理
- (1) 基幹管路の整備
- (2) 配水支管の整備
- (3) 管路の維持管理の充実
- (1) 計画・マニュアルの充実
- (2) 応急給水・復旧体制の充実

持続可能な社会を目指して、SDGs (Sustainable Development Goals) に関わる目標の達成を図る必要があるため、各施策につながる深いSDGsの目標を併せて掲げ事業推進に努めています。



持続可能な開発目標 (SDGs) における17の目標



関連するSDGsの目標

- 

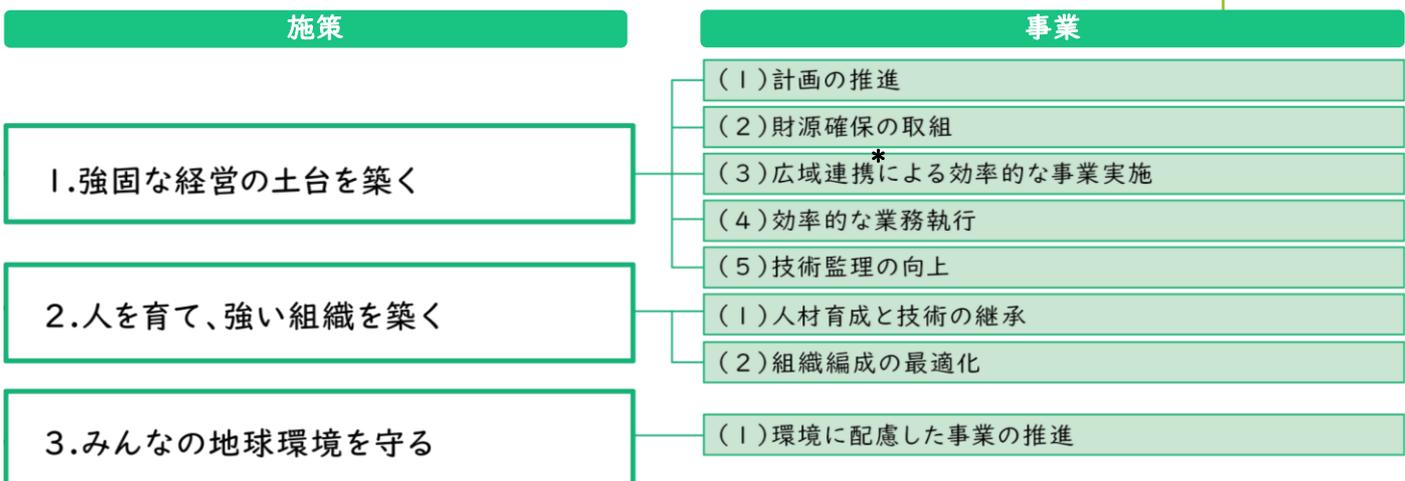
目標6
「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」
- 

目標7
「すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」
- 

目標11
「包摂的で安全かつ強靭レジリエントで持続可能な都市及び人間居住を実現する」

基本方針 III

持続 ~将来にわたり持続可能な水道事業の経営~



基本方針 IV

地域 ~吹田らしさを活かした市民に身近な水道事業の運営~



安全

～安全で安心できる水道水の供給～

- (1) 水質検査の実績
- (2) 鉛製給水管の解消に向けた取組状況
- (3) 給水方式の状況
- (4) 各事業における実績と評価



施策

事業

1. 飲み水としての安全を守る

- 1. 高水準な浄水処理の維持・向上
- 2. 鉛製給水管の対策
- 3. 直結給水の推進、給水装置及び貯水槽水道の適正管理

(1) 水質検査の実績

「すいた水道」の安心と安全を守っています！！

本市の水質検査が高い信頼性と精度を有することを保証する、

水道GLP^{*}の認定を受けています。

サーベイランス(中間審査)において、指摘のあった事項への対応を行い、認定の更新審査に向けて準備を進めました。



水道GLP認定証

法律で定められている51項目のほか、水質管理上必要と判断する項目について水質検査を実施しており、すべて合わせると130項目以上の水質検査を行っています。

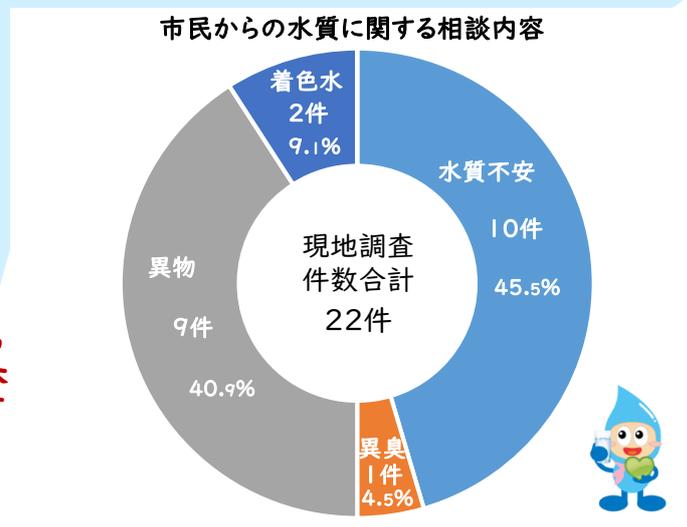


水質検査の様子



水質に対する市民の不安解消に努めています！！

市民から水質に関する相談を受け、現地で確認と採水を行い、水質検査を実施しました。水質検査の結果、工事の影響によるものを除き、問題はありませんでした。水質に問題がないことを丁寧に説明することで、市民の不安解消に努めました。



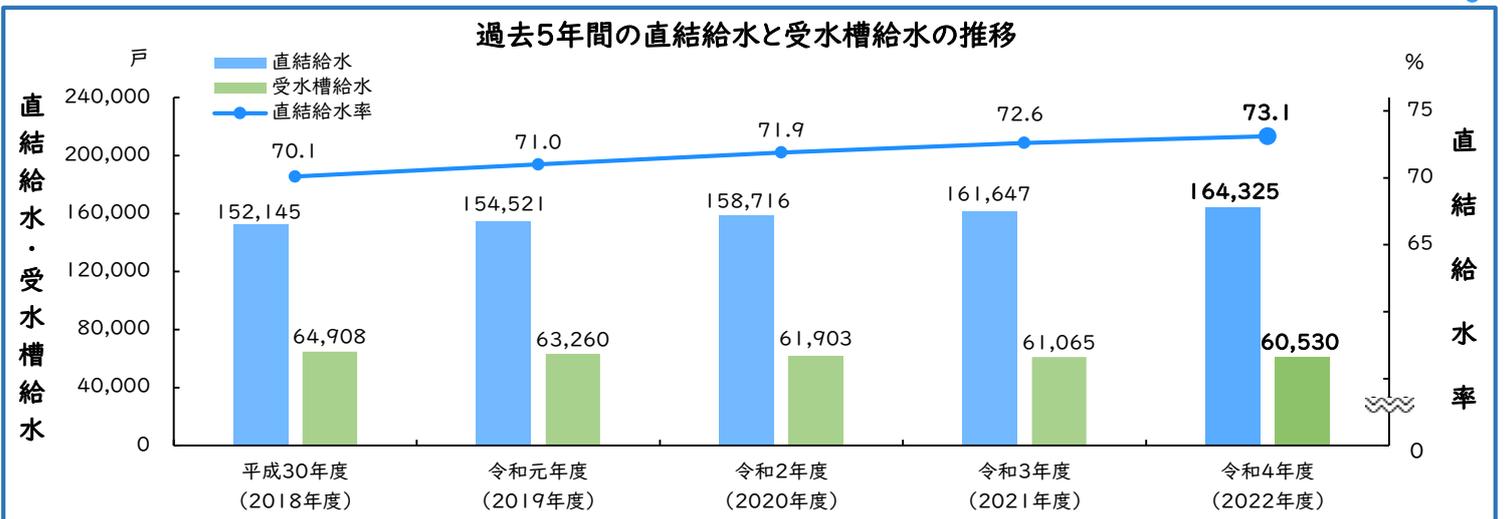
(2) 鉛製給水管の解消に向けた取組状況

(単位: 件)

項目 \ 年度	実績				
	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
解消件数	2,662	2,167	2,070	1,112	679
年度末の残存件数	11,828	9,764	7,792	6,696	6,155
鉛製給水管率	6.9%	5.6%	4.4%	3.7%	3.4%

▶ 「前年度末の残存件数-当年度の解消件数」と「当年度末の残存件数」は必ずしも一致しません。
※現地調査の結果、新たに鉛製給水管と判明した件数があるため。

(3) 給水方式の状況





基本方針「安全」の下に推進している3の事業について、令和4年度の実績と評価を記載しています。

※優位性について、数値が高い方が望ましい場合「↑」/ 数値が低い方が望ましい場合「↓」

評価 4段階

A: 計画どおりに進んだ
 B: おおむね順調に進んだ
 C: やや遅れている
 D: 遅れており、取組強化が必要

アクションプラン (R2~R7)

方針 I 安全で安心できる水道水の供給

施策 I 飲み水としての安全を守る

事業 (1) 高水準な浄水処理の維持・向上

【事業目的・概要】
 水安全計画に基づき水源からじゃろまでの水質管理を徹底し、安全な水道水の供給を行うとともに、水道GLPの認定維持をはじめ、水質管理の維持向上を図ります。
 水道使用者の水道水の安全性に対する信頼、高い満足度の維持向上に努めます。

取組	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
水安全計画の推進	運用	見直し 先進事例調査 運用実務手帳の更新		見直し		
水質監視の充実	充実					
水道GLPの認定維持		中間審査		更新		中間審査
水源水質保全の取組 (淀川水質協議会ほか)	実施					

管理指標	項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
管理指標	水質基準不適合率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	水源確認回数	28回以上	28回以上	28回以上	28回以上	28回以上	28回以上

実績と評価

水安全計画検討委員会を定期的で開催し、危害の事例報告を基に対策の検証などを実施しており、水安全計画の適切な運用に努めました。また、片山浄水所新施設の本格稼働に伴い、危害レベルの設定を行いました。施設の管理運用方法についても、一部見直しが必要であることから、今後、見直しの内容に応じて運用実務手帳の更新を行います。
 水道GLP認定については、(公社)日本水道協会によるサーベイランス(中間審査)において、指摘のあった事項への対応を行い、令和5年度に実施される認定の更新審査に向けて準備を進めました。

管理指標の数値

水質基準不適合率
 優位性 ↓ 0.0%

水源確認回数
 優位性 ↑ 28回

評価 B

アクションプラン (R2~R7)

方針 I 安全で安心できる水道水の供給

施策 I 飲み水としての安全を守る

事業 (2) 鉛製給水管の対策

【事業目的・概要】
 残存している鉛製給水管の解消を図り、漏水を防止し、より安心して使ってもらえる水道水を供給します。
 面的整備事業完了後も、様々な機会を捉えて引き続き鉛製給水管の解消を目指し取り組みます。

取組	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
面的整備による解消	鉛製給水管 布設替工事 (千里丘上・中・下、新芦屋上・下、日の出町、末広町、昭和町、その他)			終了		
布設替工事による残存箇所の解消	検討	実施				
経年管更新、漏水修繕等に伴う鉛製給水管の解消	実施					
助成金制度の利用促進・周知 (市報、広報誌、ホームページ等の活用)	実施					

管理指標	項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
管理指標	鉛製給水管率	4.5%	4.2%	3.9%	3.7%	3.4%	3.2%

実績と評価

鉛製給水管を使用している水道使用者、所有者に対して取替えに関する個別通知を行うなど、引き続き、解消に向けた取組を進めており、鉛製給水管の解消件数は679件となりました。また、個別通知の方法を見直し、業務の効率化を図りました。
 鉛製給水管布設替工事助成金について、「市報すいた」やホームページへの掲載、窓口での案内を行いました。

管理指標の数値

鉛製給水管率
 優位性 ↓ 3.4%

評価 A

アクションプラン (R2~R7)

方針Ⅰ 安全で安心してできる水道水の供給

施策Ⅰ 飲み水としての安全を守る

事業(3) 直結給水の推進、給水装置及び貯水槽水道の適正管理

【事業目的・概要】

使用者が安心して水道水を使用できるよう小規模貯水槽水道等の適正管理に向けた指導、助言等を行うとともに直結給水の普及に努めます。

給水装置の適正な設置、修繕による安全な水の安定供給を目指します。

取組	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
直結給水の啓発、推進	実施						
指定給水装置工事事業者への指導、実態把握・情報発信	実施						
小規模貯水槽水道の点検、指導・助言	実施						
管理指標	項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	直結給水率	71.1%	71.6%	72.1%	72.6%	72.9%	73.2%
	小規模貯水槽水道点検率	95.8%	96.0%	96.1%	96.3%	96.5%	96.6%

実績と評価

吹田市マンション管理基礎セミナーの開催に合わせて、直結給水方式への切替えについての説明やリーフレットの配付を行うなど、直結給水の啓発に努めました。

指定給水装置工事事業者に対して、給水装置工事の申請時などに指導・助言を行い、適正な給水装置工事の確保に努めました。

施設管理者による自主的な点検の実施などがあったことから、本市調査の小規模貯水槽水道点検率は計画を下回ったものの、点検可能な箇所は全て点検し、管理に不備があった施設管理者に対しては、指導を行いました。

管理指標の数値

直結給水率

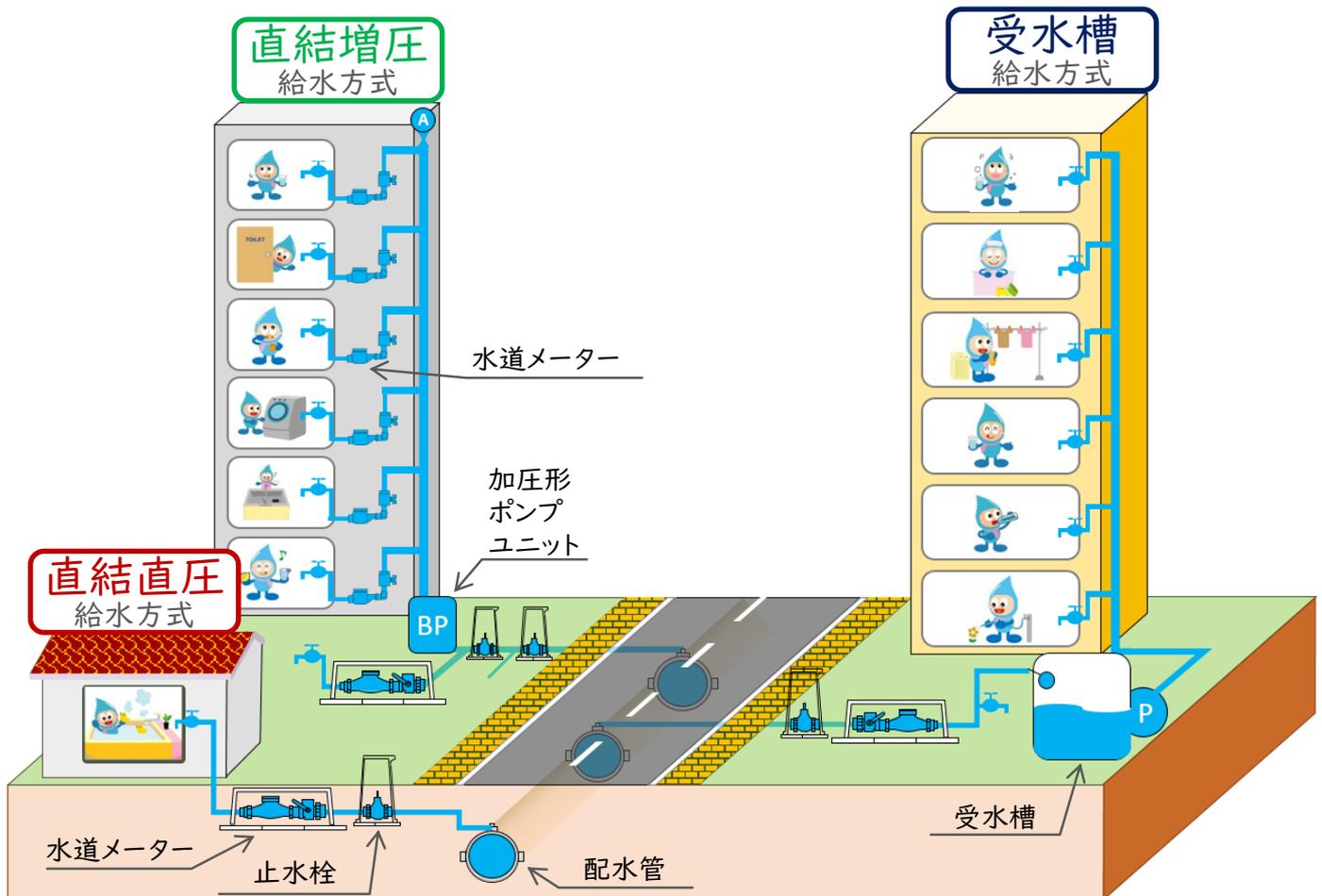
優位性 ↑ 73.1%

小規模貯水槽水道点検率

優位性 ↑ 92.9%

評価
A

給水方式の図解



直結直圧 給水方式 … 配水管の水圧を利用し末端の給水栓まで給水する方式です。

直結増圧 給水方式 … 給水管に直接、直結加压形ポンプユニットを連結し、配水管の水圧を利用しつつ水圧の不足分を加圧して末端の給水栓まで給水する方式です。

受水槽 給水方式 … 水道水をいったん、受水槽に受けてから給水する方式です。ポンプ直送式と高架水槽式があります。

強靱

～災害に強く、安定して供給できる 水道施設・体制の構築～

- (1) 自己水と依存水
- (2) 管路の整備状況
- (3) 管路に関する4つの指標
- (4) 災害時給水拠点と災害時給水所
- (5) 各事業における実績と評価



施策

事業

1. ふたつの水源を守り充実を

1. 地下水源の充実
2. 淀川表流水の維持

2. 片山浄水所を中心とした
整備を進める

1. 片山浄水所水処理施設の更新
2. 片山浄水所の場内整備
3. 片山浄水所・泉浄水所連絡管の整備
4. 南千里分岐・片山浄水所送水管の整備

3. 浄水所・配水場の整備と
管理の向上を

1. 浄配水施設の更新・耐震化
2. 浄配水施設の維持・管理

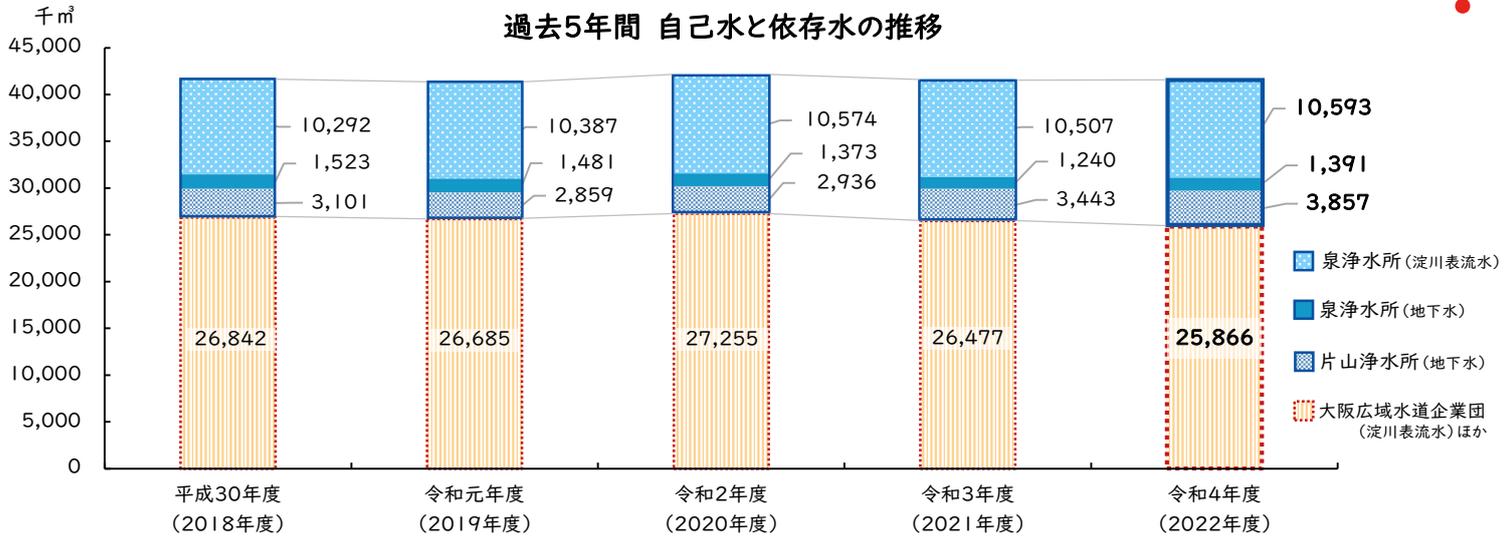
4. 水道管の整備と
管理の向上を

1. 基幹管路の整備
2. 配水支管の整備
3. 管路の維持管理の充実

5. 災害に強い体制を築く

1. 計画・マニュアルの充実
2. 応急給水・復旧体制の充実

(1) 自己水と依存水



総配水量 41,758千 m^3
 自己水 35.7%
 依存水 64.3%

総配水量 41,412千 m^3
 自己水 35.6%
 依存水 64.4%

総配水量 42,137千 m^3
 自己水 35.3%
 依存水 64.7%

総配水量 41,667千 m^3
 自己水 36.5%
 依存水 63.5%

総配水量 41,707千 m^3
 自己水 38.0%
 依存水 62.0%

自己水

令和4年度(2022年度)は、15,841,441 m^3 となり、前年度と比較して651,219 m^3 (4.3%)増加しました。

依存水

令和4年度(2022年度)は、25,865,657 m^3 となり、前年度と比較して611,418 m^3 (2.3%)減少しました。

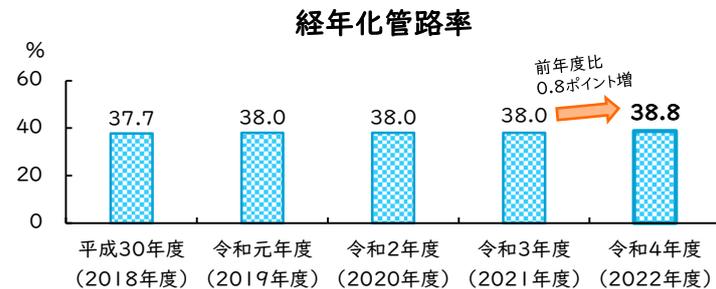
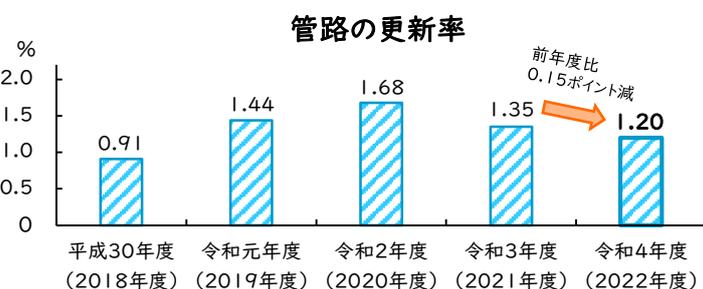
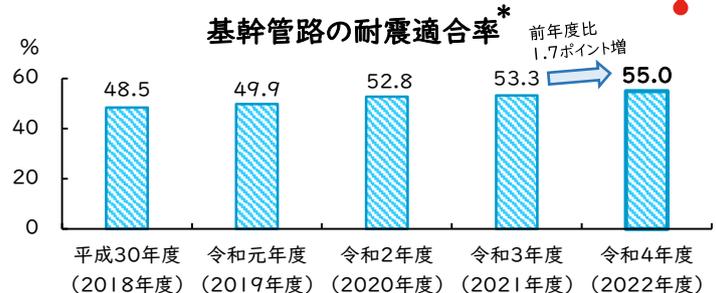
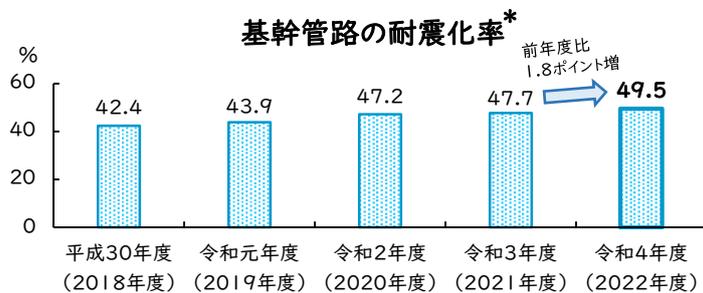
(2) 管路の整備状況

(単位:m)

事業種別	年度	平成30年度 (2018年度) 実績	令和元年度 (2019年度) 実績	令和2年度 (2020年度) 実績	令和3年度 (2021年度) 実績	令和4年度 (2022年度) 実績	令和5年度 (2023年度) 予定
基幹管路整備事業 (耐震化工事)		991	2,272	5,018	1,955	1,338	3,711
	経年管更新工事*	5,657	9,099	10,032	8,636	8,098	9,088
配水支管整備事業		6,705	9,190	10,032	9,308	8,098	11,235
	配水支管新設工事*	1,048	91	0	672	0	2,147

*更新・新設時に耐震管を使用しています。

(3) 管路に関する4つの指標



災害時給水拠点

8
か所

浄水所 及び 配水場 などにおいて、応急給水のための設備のほか、飲料水袋などを備蓄しています。

災害時などに開設し、応急給水を受けることができます。

泉浄水所



片山浄水所



山田配水場



佐井寺配水場



千里山配水場



津雲配水場



北千里給水拠点



健都給水拠点



災害時給水所

37
か所

避難所(小学校)などに、組立式給水タンクを設置し、給水車から水を入れるなどにより、災害時給水拠点よりも身近に応急給水を受けることができます。



のぼり旗
給水所を開設している目印です。

災害時給水所等を開設し、応急給水を実施する場合は、市のホームページや広報車等でお知らせします。

(5) 各事業における実績と評価

基本方針「強靱」の下に推進している13の事業について、令和4年度の実績と評価を記載しています。

※優位性について、数値が高い方が望ましい場合「↑」/ 数値が低い方が望ましい場合「↓」

評価
4段階

- A: 計画どおりに進んだ
- B: おおむね順調に進んだ
- C: やや遅れている
- D: 遅れており、取組強化が必要

アクションプラン (R2~R7)

方針Ⅱ 災害に強く、安定して供給できる水道施設・体制の構築

施策Ⅰ ふたつの水源を守り充実を

事業(1) 地下水源の充実

【事業目的・概要】

地震等の自然災害に強く、水質が安定した地下水源の増強、既存施設の適切な維持管理を行い、水道水の安定供給を図ります。

市域南部の拠点となる片山浄水所の水源として井戸の新設、掘替えを実施します。

取組	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
片山浄水所地下水源の増強	井戸用地の確保、掘削(4本)						
片山浄水所地下水源の維持・管理	実施						
泉浄水所地下水源の維持・管理	実施						
管理指標	項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	地下水源率	9.7%	13.7%	13.8%	13.9%	11.3%	11.3%

実績と評価

片山浄水所地下水源の増強を図るための構外井戸の新設については、世界的な半導体不足によりポンプ設備材料の調達が遅れたことで、一部の工事を令和5年度に繰り越したものの、既存井戸の水中ポンプの点検、整備及びしゅんせつ工事については予定どおり実施しました。

管理指標の数値

地下水源率

優位性 ↑

12.6%

評価
B

アクションプラン (R2~R7)

方針Ⅱ 災害に強く、安定して供給できる水道施設・体制の構築

施策Ⅰ ふたつの水源を守り充実を

事業(2) 淀川表流水の維持

【事業目的・概要】

本市の9割以上の水道水の水源である淀川表流水を確保し、安定した水道水の供給を維持します。

水利使用許可(水利権)の更新や取水施設の確保に取り組むとともに、企業団水を安定して確保するために大阪広域水道企業団との連携強化に努めます。

取組	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
泉浄水所表流水源の維持・管理	企業団水受水申込 水利使用許可更新業務の委託					
						認可変更に係る業務の委託

実績と評価

令和2年度に許可申請した淀川表流水の水利使用許可(継続更新)と取水地点の変更について、関係各所との協議や調整、国の審査に時間を要したことにより、許可の取得が予定より遅れたため、工期の見直しが必要となったものの、導水施設の改良工事などに着手しました。

評価
B

アクションプラン (R2~R7)

方針Ⅱ 災害に強く、安定して供給できる水道施設・体制の構築

施策Ⅱ 片山浄水所を中心とした整備を進める

事業(2) 片山浄水所の場内整備

【事業目的・概要】

災害時の活動拠点としての充実を図るとともに、市民に親しまれる浄水所を目指して、更新工事後の既存施設の撤去及び場内整備を行います。

取組	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
片山浄水所場内整備工事	設計業務	工事着手	既設構造物の撤去 擁壁調査		法面是正	場内整備

実績と評価

片山浄水所場内の管路の耐震化や道路の整備などに取り組みました。また、整備の支障となるコンクリート構造物の撤去に当たり、騒音や振動などをより軽減させるため、工法を見直したことにより、一部の工程に遅れが生じたものの、おおむね計画どおりに進めることができました。

評価
B

アクションプラン (R2~R7)

方針Ⅱ 災害に強く、安定して供給できる水道施設・体制の構築

施策2 片山浄水所を中心とした整備を進める

事業(4) 南千里分岐・片山浄水所送水管の整備

【事業目的・概要】

大阪広域水道企業団・千里幹線バイパス管から佐井寺配水場及び片山浄水所への送水管の耐震化、複線化を行い、片山浄水所の機能強化及び安定給水の確保を図ります。

泉浄水所の将来的な機能停止に向けて、片山浄水所経由での企業団水の配水を可能とするための重要管路として整備します。

取組	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
南千里分岐・片山浄水所送水管布設工事	設計業務 (佐井寺配水場-片山浄水所)	布設工事 (佐井寺配水場-片山浄水所)				
			設計業務 (南千里分岐-佐井寺配水場)		布設工事 (南千里分岐-佐井寺配水場)	

実績と評価

一層の安定供給を図るため、大阪広域水道企業団から受水する管路の複線化事業を進めており、同企業団千里幹線の南千里分岐から片山浄水所への送水管を布設しているところです。

佐井寺配水場から片山浄水所までの区間については、シールドマシンを用い、片山浄水所に向けて掘進しています。

また、南千里分岐から佐井寺配水場までの区間の設計業務については、当初の計画どおりに発注することができたものの、送水管の布設位置や工法などの決定には至りませんでした。引き続き、関係各所と協議を進めていきます。

評価
B

アクションプラン (R2~R7)

方針Ⅱ 災害に強く、安定して供給できる水道施設・体制の構築

施策3 浄水所、配水場の整備と管理の向上を

事業(1) 浄水施設の更新・耐震化

【事業目的・概要】

水道システムの重要施設である浄配水場について、泉浄水所の抜本的更新を留保しつつ、経年化する施設等の更新、耐震化を進め、水道システム全体の安定性向上を効率的に図っていきます。

津雲配水場内管の耐震化のほか、各配水場における予防保全のための経年設備の更新を計画的に実施します。

取組	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
津雲配水場内管耐震化工事	・支障物撤去 場内整備 ・配管、建築 電気工事	・供用開始				
配水施設・設備等の更新工事	経年設備の更新					
部庁倉、泉浄水所浄水施設等の更新	計装設備の更新 ・受変電設備更新(庁倉)	・受変電設備更新 (第3電気室)		・受変電設備更新 (第1電気室) ・機械設備更新	・機械設備更新	・活性炭吸着池改修 ・配水ポンプ更新

実績と評価

津雲配水場の受変電設備更新工事については、工事の着手に遅れが生じたものの、工事の完了時期は当初の予定どおりとなる見通しです。

また、その他の浄配水施設の設備更新については、世界的な半導体不足に伴う材料調達遅れにより、一部の工事を令和5年度に繰り越したものの、おおむね計画どおりに完了しました。

評価
B

アクションプラン (R2~R7)

方針Ⅱ 災害に強く、安定して供給できる水道施設・体制の構築

施策3 浄水所、配水場の整備と管理の向上を

事業(2) 浄水施設の維持・管理

【事業目的・概要】

水道システムの重要施設である浄配水施設を適切に維持管理することで、水道システム全体の安定性向上を効率的に図ります。

水道維持管理指針に基づく保守点検や修繕工事、配水池の定期的な清掃、劣化診断を実施するとともに機器台帳システムを活用した施設の維持管理に取り組みます。

取組	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
泉浄水所の維持・管理	実施					
片山浄水所の維持・管理	実施					
配水施設・設備等の維持・管理	実施					
配水池の劣化診断・池内清掃	・津雲配水場(第1~3)	・千里山配水場	・泉浄水所(第2)	・山田配水場・片山浄水所(第4)	・泉浄水所(第1) ・片山浄水所(第2)	
施設台帳の充実・活用	充実・活用 ・機器台帳システム更新			・タブレット端末導入・活用		
項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
管理指標 配水池点検率	27.3%	36.4%	54.5%	72.7%	90.9%	90.9%

実績と評価

浄配水施設における設備・機器について、おおむね計画どおりに保守点検を行いました。また、経年劣化や突発的な事象により生じた故障については修繕を行い、対応しました。しかし、泉浄水所の第2配水池に係る防水工事においては、池内の劣化が想定以上に進んでおり、追加で補修する必要があったため、遅れが生じました。

片山浄水所新施設をはじめ、水道施設の更新情報などを台帳システムに入力する作業を進めていますが、入力するデータが膨大であるため、入力方法を見直すとともに、台帳システムの今後の利活用について検討していきます。

管理指標の数値

配水池点検率

優位性 ↑

54.5%

評価
B

アクションプラン (R2~R7)

方針Ⅱ 災害に強く、安定して供給できる水道施設・体制の構築

施策4 水道管の整備と管理の向上を

事業(1) 基幹管路の整備

【事業目的・概要】

送水管・配水本管をはじめとした基幹管路の耐震化に取り組み、大規模地震等においても送配水機能を損なうことがないよう、強靱な送配水ネットワークを構築します。

取組	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
基幹管路耐震化工事	更新 新設 4.6km	1.4km	0.8km	1.7km	2.4km	4.2km	
管理指標	項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
管理指標	基幹管路の耐震適合率	54.3%	55.0%	55.4%	56.2%	57.4%	59.3%

実績と評価

配管ルート上に想定していなかった残置管があり、撤去する必要が生じたことや地元調整に時間を要したことなどにより、一部の工事を令和5年度に繰り越したものの、その他の工事はおおむね計画どおりに完成したため、整備延長は1.1kmとなりました。
引き続き、大規模地震などの自然災害に備え、計画的に管路の耐震化に取り組みます。

管理指標の数値

基幹管路の耐震適合率

優位性 ↑ 55.0%

評価
B

アクションプラン (R2~R7)

方針Ⅱ 災害に強く、安定して供給できる水道施設・体制の構築

施策4 水道管の整備と管理の向上を

事業(2) 配水支管の整備

【事業目的・概要】

老朽化した配水管を、吹田更新基準に基づいて耐震管に取り替えていくことで、大規模地震等に備えるとともに、破損漏水や管内部の鉄さび等による濁水の抑制を図ります。

取組	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
経年管の更新・管路の新設 (重要給水施設管路のルート検証・更新)	更新 8.0km 新設 0.5km	8.0km 0.5km	8.0km 0.5km	8.0km 0.5km	8.0km 0.5km	8.0km 0.5km	
管理指標	項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
管理指標	重要給水施設管路耐震化適合率(箇所比)	11.6%	11.6%	13.0%	14.5%	14.5%	15.9%
	法定耐用年数超過管路率	38.1%	38.1%	38.8%	39.2%	39.6%	39.3%
	管路の更新率	1.22%	1.22%	1.22%	1.21%	1.20%	1.19%

実績と評価

本市では、年間8kmのペースを基本として老朽化した水道管の更新を進めています。令和4年度は8.1kmの更新延長となり、管路の老朽度、更新の取組状況を表す、法定耐用年数超過管路率は当初見込んでいた程度にとどまりました。

また、管路の耐震適合性を有する重要給水施設箇所数が1箇所増加し、重要給水施設管路耐震化適合率は、計画を上回りました。なお、片山浄水所・泉浄水所連絡管の完成に伴い、令和3年度に耐震適合性を有する管路で非常時に供給可能な重要給水施設の箇所数を見直したことから、令和2年度と比較して、数値は大幅に伸びています。

管理指標の数値

重要給水施設管路耐震化適合率(箇所比)

優位性 ↑ 23.2%

法定耐用年数超過管路率

優位性 ↓ 38.8%

管路の更新率

優位性 ↑ 1.20%

評価
A

アクションプラン (R2~R7)

方針Ⅱ 災害に強く、安定して供給できる水道施設・体制の構築

施策4 水道管の整備と管理の向上を

事業(3) 管路の維持管理の充実

【事業目的・概要】

漏水調査や付属設備の点検など、効率的・効果的な管路の維持管理により、健全な水道システムを維持し安定給水を図ります。

マッピングシステムを活用した弁栓等の付帯設備や河川、幹線道路の横断管路などの点検、管理の充実を図ります。

取組	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
管路の点検・管理の向上	点検・管理の向上 弁室台帳作成(基幹管路)	漏水マップの作成				漏水マップの作成
マッピングシステムの充実・活用	充実・活用					
新たな漏水調査方法の検討・実施	実施					
定期的な管内洗浄	実施					
基幹管路の被害想定	修繕困難箇所の洗出し、対応策の検討					

実績と評価

本市が管理する水管橋のうち、13橋について高所作業車などを用いた点検を実施しました。今後も定期的に点検を実施し、予防として修繕を行うことで、効果的かつ効率的に維持管理し、ライフサイクルコストの最適化や水管橋の長寿命化を図ります。

昼夜において漏水調査を実施するとともに、漏水調査の一層の効率化を図るため、夜間に実施する箇所数の削減について検討を進めました。令和5年度から夜間の漏水調査については、繁華街や漏水多発地区のみ実施することとしました。

濁水などが発生した箇所については、管内洗浄作業を実施しました。原因の解消に至らなかった箇所については、引き続き、管内洗浄作業などを実施し、対応していきます。

評価
B

アクションプラン (R2~R7)

方針Ⅱ 災害に強く、安定して供給できる水道施設・体制の構築

施策5 災害に強い体制を築く

事業(1) 計画・マニュアルの充実

【事業目的・概要】
災害等の発生時に備えて、迅速な応急給水、応急復旧をはじめ、円滑に対応できるよう、これまでの被災地派遣等の経験を活かして、既存のマニュアルや計画を見直すとともに、職員への周知を図ります。また、災害時の被害想定やそれに基づく耐震化計画の策定に取り組めます。
事故や事務処理ミス等の再発防止に向けた取組を進めます。

取組	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
危機管理マニュアル及びBCP(事業継続計画)の運用	運用 見直し					
受援計画の策定・運用	策定	運用 見直し				
耐震化計画の策定・運用	検討 策定		運用			
事故事例の情報共有・再発防止	情報共有 方法の検討 事故報告 フロー図等 の作成	実施				

実績と評価

受援計画に基づいて、他事業体の協力の下、応急給水訓練を実施しました。災害発生時などに外部からの応援を円滑に受け入れ、その支援を最大限に活用するため、引き続き、受援計画に基づいた訓練の実施を検討します。

耐震化計画の策定において、災害時の被害想定に取り組みました。地震発生時の管路被害の予測に当たり、想定する地震動や用いる被害想定手法といった条件を検討し被害状況の可視化を行ったものの、被害想定 of 整理などに時間を要したことから耐震化計画の策定には至りませんでした。引き続き、耐震化計画の策定に向けて取り組みます。

評価
C

アクションプラン (R2~R7)

方針Ⅱ 災害に強く、安定して供給できる水道施設・体制の構築

施策5 災害に強い体制を築く

事業(2) 応急給水・復旧体制の充実

【事業目的・概要】
災害等の発生時に迅速、円滑に応急給水、応急復旧ができるよう、必要な資機材の確認、在庫管理に努めるとともに、他事業体等との相互応援など連携を図ります。
災害時により身近な場所での給水が可能となるよう、災害時給水所の充実や、防災訓練などを通じた地域との連携に努めます。

取組	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
応急給水に必要な資機材の確保	実施						
災害時給水拠点・給水所の整備	実施 ・泉浄水所整備 ・津雲配水場整備 ・組立式給水タンク配備	・片山浄水所整備 ・蓮間配水場整備					
災害時を想定した訓練の企画・実施	実施						
応急復旧に必要な資機材の確保	検討	実施					
管理指標	項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
応急給水施設数		45か所	45か所	45か所	45か所	45か所	45か所

実績と評価

津雲配水場と北千里給水拠点について、給水拠点の機能増強のため、給水車用給水栓や常設の応急給水栓の設置などの整備を行いました。

地域のみなさまが非常時に、円滑に応急給水ができるよう、避難所となる小学校(14校)において、地区連合自治会の防災委員などを対象とした組立式給水タンクの設置訓練を実施しました。また、組立式給水タンクの設置方法に関する説明動画を制作し、ホームページに公開しました。

管理指標の数値

応急給水施設数

優位性 ↑

45か所

評価
A

持続

～将来にわたり持続可能な 水道事業の経営～

- (1) 健全な水道事業経営のための財政状況
- (2) 職員数と人件費
- (3) 省エネルギーの推進
- (4) 各事業における実績と評価



施策

事業

1. 強固な経営の土台を築く

1. 計画の推進
2. 財源確保の取組
3. 広域連携による効率的な事業実施
4. 効率的な業務執行
5. 技術監理の向上

2. 人を育て、強い組織を築く

1. 人材育成と技術の継承
2. 組織編成の最適化

3. みんなの地球環境を守る

1. 環境に配慮した事業の推進

(1) 健全な水道事業経営のための財政状況

水道事業経営の持続性向上のために

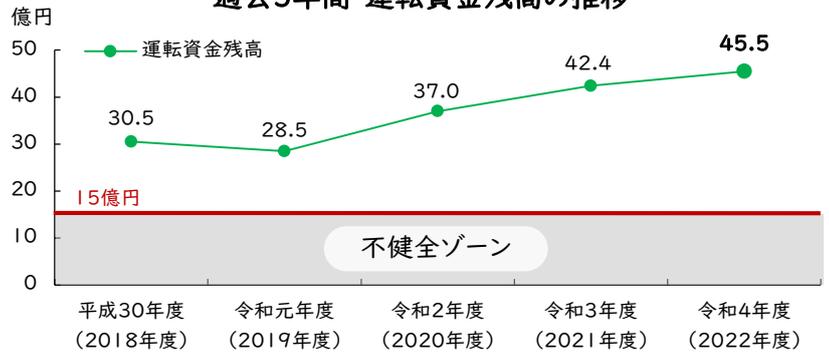
令和11年度(2029年度)における目標

目標1

運転資金残高 **25億円**

一部の建設改良工事を翌年度に繰り越したことなどにより、令和4年度(2022年度)末時点の運転資金残高は前年度と比較して、3.1億円増加しました。

過去5年間 運転資金残高の推移



将来世代に過度な負担を残さないために

令和11年度(2029年度)における目標

目標2

企業債残高対給水収益比率 **350%程度まで**

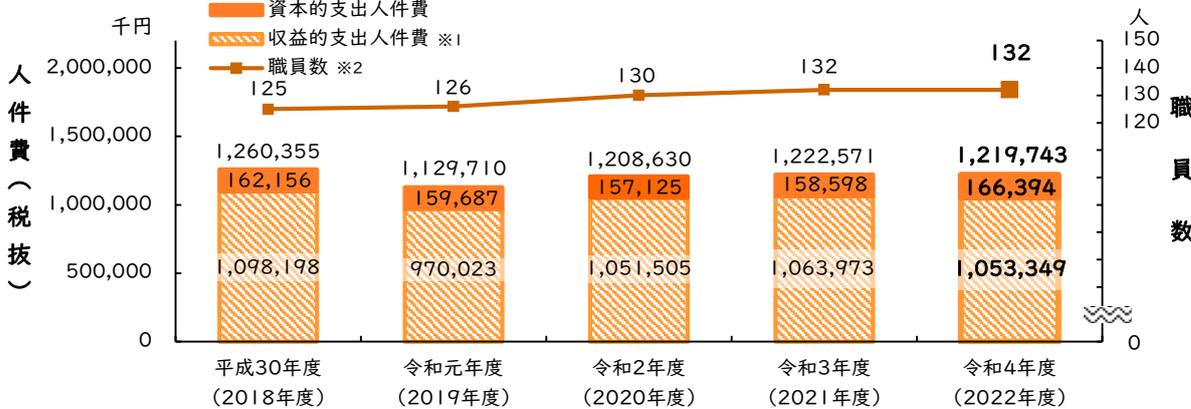
建設改良工事の財源として、15.5億円の企業債を借り入れたことで、企業債残高が9.1億円の増加となり、企業債残高対給水収益比率は前年度と比較して、14.2ポイント増加しました。

過去5年間 企業債残高対給水収益比率の推移*



(2) 職員数と人件費

過去5年間 職員数・人件費の推移



災害時でも安定的に水を供給し、「すいた水道」を守り続けるために人材確保と人材育成に努めます。

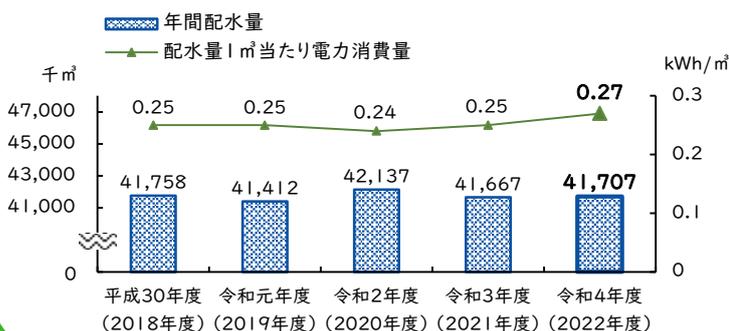


※1 収益的支出の人件費には退職給付引当金繰入額を含む

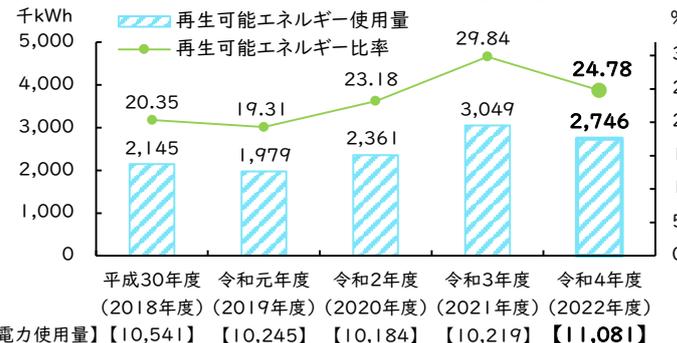
※2 管理者、再任用短時間勤務職員及び会計年度任用職員を除く年度末の人数

(3) 省エネルギーの推進

過去5年間 配水量1㎡当たりの電力消費量の推移



過去5年間 再生可能エネルギー使用量と比率の推移



(4) 各事業における実績と評価

基本方針「持続」の下に推進している8の事業について、令和4年度の実績と評価を記載しています。

※優位性について、数値が高い方が望ましい場合「↑」/ 数値が低い方が望ましい場合「↓」

評価
4段階

- A: 計画どおりに進んだ
- B: おおむね順調に進んだ
- C: やや遅れている
- D: 遅れており、取組強化が必要

アクションプラン (R2~R7)

方針Ⅲ 将来にわたり持続可能な水道事業の経営

施策Ⅰ 強固な経営の土台を築く

事業(1) 計画の推進

【事業目的・概要】
「すいすいビジョン2029」に基づく各施策・事業を着実に進め、基本理念の実現を目指します。
具体的な実施計画であるアクションプランをPDCAサイクルにより継続的に進捗管理し、その成果の見える化を図ります。
中長期的な視点でのアセットマネジメント(資産管理)や定期的な財政状況の検証を行います。

取組	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
アクションプランの進捗管理・見直し	実施					ビジョン・アクションプランの見直し
財政計画の検証	実施 アセットマネジメントの見直し(WT設置)					財政状況、料金水準の検証、財政推計の実施
項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
経費(料金)回収率	115.0%	114.0%	112.8%	113.9%	111.2%	109.3%
流動比率	212.3%	198.2%	194.4%	203.2%	220.9%	204.6%
給水収益に対する企業債残高の割合	256.9%	270.5%	283.6%	297.7%	313.6%	318.3%

実績と評価

世界的な半導体不足の影響などにより、一部の事業において、計画に遅れが生じたものの、具体的な実施計画であるアクションプランをPDCAサイクルにより進捗管理しました。また、施策・事業の進捗状況などをホームページに公開し、見える化に努めました。
現行ビジョンの計画期間が10年間と中長期にわたることから、中間時期の令和6年度には水道事業を取り巻く社会情勢の変化や施策・事業の達成状況などを踏まえて見直す予定であり、次期ビジョンの策定に向けて、アセットマネジメントの精緻化に努めており、アクションプランの見直しなどについても、今後進めていきます。
固定資産除却費や動力費の増加などにより給水原価が計画よりも上昇したことから、経費(料金)回収率は計画を下回りました。引き続き、業務の効率化によるコスト削減などに努め、財政基盤の強化に取り組みます。

管理指標の数値

経費(料金)回収率

優位性 ↑ 111.0%

流動比率

優位性 ↑ 290.2%

給水収益に対する企業債残高の割合

優位性 ↓ 273.0%

評価
B

アクションプラン (R2~R7)

方針Ⅲ 将来にわたり持続可能な水道事業の経営

施策Ⅰ 強固な経営の土台を築く

事業(2) 財源確保の取組

【事業目的・概要】
水道事業経営の原資となる水道料金の適正化や、その他の収入源の確保により、経営基盤の強化を図ります。
水道料金滞納者への債権回収や未利用資産の貸付など活用に関するほか、営業収益に大きな影響を与える地下水利用専用水道への対応を検討します。

取組	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
地下水利用専用水道設置への対策	実施 調査	調査、研究	調査、研究	検討		
弁護士と連携した債権回収の実施	実施					
未利用資産の活用	活用					
企業債、補助金(国・府への要望)等の活用	活用 要望					
項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
経費(料金)回収率	115.0%	114.0%	112.8%	113.9%	111.2%	109.3%
流動比率	212.3%	198.2%	194.4%	203.2%	220.9%	204.6%
給水収益に対する企業債残高の割合	256.9%	270.5%	283.6%	297.7%	313.6%	318.3%

実績と評価

水道料金の債務者に対して、顧問弁護士による催告や支払督促を引き続き、行いました。
所有地のうち、旧千里山浄水所用地は、駐車場用地としてその大部分を貸し付けたほか、公共工事の現場事務所として貸し付け、未利用資産の活用にも努めました。
地下水等利用専用水道への対策状況について、他事業体に調査を行いました。引き続き、本市における対応策について検討します。

管理指標の数値

経費(料金)回収率

優位性 ↑ 111.0%

流動比率

優位性 ↑ 290.2%

給水収益に対する企業債残高の割合

優位性 ↓ 273.0%

評価
A

アクションプラン (R2~R7)

方針Ⅲ 将来にわたり持続可能な水道事業の経営

施策Ⅰ 強固な経営の土台を築く

事業(3) 広域連携による効率的な事業実施

【事業目的・概要】

効率的な事業実施を目指して、近隣事業者と連携し、施設の統廃合や業務の共同発注、資機材の共同利用等の研究・検討に取り組みます。

企業団、豊中市、箕面市と連携した共同ポンプ施設の整備、その前段となる蓮間配水場の機能停止に向けて、豊中市との連携による配水場の共同化に取り組みます。

取組	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
豊中市、箕面市、大阪広域水道企業団との連携による配水施設の統廃合	3市共同ポンプ施設の築造 第1期工事					
柿ノ木配水場(豊中市)の共同使用	協議 蓮間低区・高区配水管 布設工事		第三者委託 による運用			
他事業者との連携 推進	施設の共同化、 業務の連携の 検討 府域一水道 に向けた 協議会への 参加					

実績と評価

豊中市の柿ノ木配水場の共同化に関する協定に基づき、蓮間配水場から給水していた区域は、令和4年4月に柿ノ木配水場と大阪広域水道企業団の千里浄水池からの給水に切り替え、蓮間配水場の機能を停止しました。

これにより、蓮間配水場の更新費用を削減することができました。

評価
A

アクションプラン (R2~R7)

方針Ⅲ 将来にわたり持続可能な水道事業の経営

施策Ⅰ 強固な経営の土台を築く

事業(4) 効率的な業務執行

【事業目的・概要】

料金業務の包括委託など、公的責任を果たすことを前提とした官民連携の推進、業務見直しやICT技術の活用などによる業務の効率化を図ります。

多様な用途への活用が期待できるスマートメーターの実証実験など機会を捉えて積極的に取り組みます。

取組	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
料金業務の包括委託		・電話受付 業務の委託	包括委託の 検討		業者決定 委託業務 実施		
料金システム更新による効率化	・業者決定 (プロポーザル 方式)	・システム 開発	・システム 開発、新シ ステム稼働				
事務改善の実施 (「無・減・代」活動 の実施、業務委託、 PFI等の検討)	実施						
ICTの活用	・スマート メーターの 研究	・スマート メーターの 研究・検討					
管理 指標	項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	経費(料金) 回収率	115.0%	114.0%	112.8%	113.9%	111.2%	109.3%
	給水原価	147.6円	148.1円	148.9円	146.5円	149.4円	151.1円

実績と評価

令和7年1月からの料金業務などの包括委託に向けて、委託する業務範囲について検討を行いました。引き続き、委託内容や業務体制などについて精査します。

料金システムの更新業務については、現行システムから新システムへのデータ移行や運用に向けたテストなどを計画どおり実施し、令和5年1月に新システムが本格稼働しました。

Suitaサステイナブルスマートタウンの一部施設においてスマートメーターの実証実験を開始しました。また、令和5年2月から実証実験を実施している住戸に対し、使用水量可視化サービスの提供を開始しました。使用水量の見える化による節水効果や漏水の検知が可能かなどの検証を行います。

管理指標の数値

経費(料金)回収率

優位性 ↑ 111.0%

給水原価

優位性 ↓ 153.4円

評価
A

アクションプラン (R2~R7)

方針Ⅲ 将来にわたり持続可能な水道事業の経営

施策Ⅰ 強固な経営の土台を築く

事業(5) 技術監理の向上

【事業目的・概要】

施設・管路の適正な整備、維持管理や優れた技術の導入を図り、より効果的に水道施設の強靱化を図ります。

工事の設計・積算基準や指針の作成、工事監理、検査に関する勉強会の実施や、定期的に新技術、新材料の検討を行い、導入していきます。

取組	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
工事監理の向上 (研修、勉強会等)	実施					
新技術・新材料の 調査研究・導入	調査 研究 給水管耐震化の検討		導入			

実績と評価

知識や実践的な技術を習得するための取組として、職員研修を3回実施しました。今後は研修計画などを踏まえ、研修の内容充実に努めます。

給水管材料として耐震性を有するポリエチレン管の採用に向けて検討を進めました。また、採用するに当たり、職員の知識を深めるため研修を実施しました。

評価
A

アクションプラン (R2~R7)

方針Ⅲ 将来にわたり持続可能な水道事業の経営

施策2 人を育て、強い組織を築く

事業(1) 人材育成と技術の継承

【事業目的・概要】

必要な人材を育成し、技術・技能を継承していくために、長期的な視点から計画的に専門性の維持・向上を図ります。

目指すべき職員像や段階ごとに必要な能力を明確にした人材育成方針を策定し、必要な技術・技能を習得するための研修等を計画的に実施していきます。

取組	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
人材育成方針の策定	策定	周知 検証				
計画的・段階的な研修の実施	研修計画の調査、研究 研修、部内 インターン シップの 実施	研修計画 策定				
項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
研修時間 (内部+外部)	22.8時間/人	23.0時間/人	23.2時間/人	23.4時間/人	23.6時間/人	23.8時間/人

実績と評価

現場力向上方針を踏まえ、水道部職員として目指すべき職員像や、経験年数ごとに必要とされる能力、所属部署や業務への従事期間に応じて必要となる研修をまとめた、研修計画を策定しました。策定が当初の計画から遅れたため、運用には至りませんでした。今後、部研修の実施などにより、職員への周知を図るとともに、研修計画に基づき、高い現場力を持った技術職員の育成に取り組んでいきます。部内外の研修において、コロナ感染防止策の徹底やオンラインでの研修実施により受講機会が増加したことから、研修時間を確保することができました。

管理指標の数値

研修時間(内部+外部)

優位性 ↑ 24.6時間/人

評価

B

アクションプラン (R2~R7)

方針Ⅲ 将来にわたり持続可能な水道事業の経営

施策2 人を育て、強い組織を築く

事業(2) 組織編成の最適化

【事業目的・概要】

市民に信頼される安全で安定した事業運営を維持するとともに、職員が心身ともに健康に働き続けることができる組織体制を構築します。

業務量に応じた職員配置となるよう必要な人材を確保するとともに、より効率的な業務実施に向けた体制づくりに努めます。

取組	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
職員体制計画に基づく組織編成	実施					

実績と評価

片山浄水所水処理施設更新工事などの完成により、職員数や職員配置を見直しました。欠員が生じている技術職員を中心に、職員体制計画に基づき、職員数の確保に努めるとともに、令和7年1月からの料金業務の包括委託や将来的な泉浄水所の機能停止を見据え、事業量に見合った職員数の確保に努めます。

評価

B

アクションプラン (R2~R7)

方針Ⅲ 将来にわたり持続可能な水道事業の経営

施策3 みんなの地球環境を守る

事業(1) 環境に配慮した事業の推進

【事業目的・概要】

健全な水循環の上に成り立つ水道事業において、浄水処理や配水に大量の電力を必要とすることから、太陽光発電や小水力発電など水道施設を利用した再生可能エネルギーの導入をはじめとした環境負荷低減を図るとともに、イベント等を通じて水環境保全についての啓発活動に取り組みます。

取組	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
環境負荷低減の取組	照明等のLED化 経年空調設備の更新		片山浄水所 太陽光発電 設置 津雲配水場 太陽光小水力 発電設置			
SUITA MOTTANOCITY ACTIONPALANの推進	実施					
リサイクル資材の活用・建設副産物の抑制	実施					
水環境に対する啓発活動	実施					
項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
配水量1m ³ 当たり電力消費量	0.25kWh/m ³	0.28kWh/m ³	0.28kWh/m ³	0.28kWh/m ³	0.26kWh/m ³	0.26kWh/m ³

実績と評価

環境負荷低減を図るため、浄配水施設において再生可能エネルギーの利用に取り組んでおり、令和4年度には津雲配水場に小水力発電設備を設置しました。また、片山浄水所及び津雲配水場に太陽光発電設備を設置するための準備を進めました。会議資料などを電子媒体で共有し、印刷枚数を削減するなど、ペーパーレス化に取り組みました。小学4年生を対象にした、浄水所見学や出前授業を通じて、水の大切さについての啓発活動に取り組みました。また、水循環についての内容などを追加し、リニューアルした「みんなの水道」(動画)をホームページに公開しました。

管理指標の数値

配水量1㎡当たり電力消費量

優位性 ↓ 0.27 kWh/㎡

評価

A

地域

～吹田らしさを活かした 市民に身近な水道事業の運営～

- (1) 主な広報・広聴活動の実績
- (2) 市民サービス充実の取組状況
- (3) 各事業における実績と評価



施策

事業

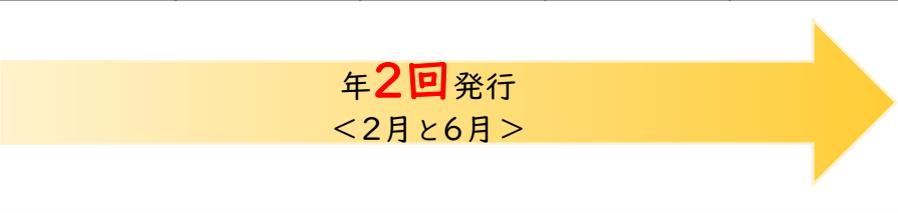
1. 使う人に便利で
快適なサービスを

1. 料金に係るサービスの充実
2. 給水装置の維持管理に係るサービスの充実
3. 水道水質に係るサービスの充実

2. 市民といっしょに水道を考える

1. 多様な手段による広報の充実
2. 市民参画の推進による広聴の充実
3. フューチャー・デザインの取組
4. 市民とのパートナーシップの推進

(1) 主な広報・広聴の実績

取組	年度	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)
						
 <p>広報誌 「すいどうにゅーす」</p>						
<p>浄水所見学</p>  <p>泉浄水所見学の様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市内小学校 25校 JICA研修 水道フェア ほか 	<ul style="list-style-type: none"> 市内小学校 29校 JICA研修 水道フェア 	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 市内小学校 13校 水道マイスター ほか 	
 <p>夏休みめざせ！ 水道マイスター</p> <p>開催状況</p>	—	—	—	—	90人参加	
<p>出前授業</p>  <p>授業の様子</p>	市内小学校 9校	市内小学校 6校	—	—	市内小学校 9校	
<p>針江生水の郷</p>  <p>水源見学 バスの旅</p>	<p>もくもくの里・針江生水の郷</p>		36人参加	39人参加	—	—
<p>水道いどばた会議*</p>  <p>西山田地区公民館</p>	24回開催 488人参加	—	—	—	—	
 <p>大学との連携</p> <p>大阪学院大学 PBL</p>	—	<p>関西大学にて講義</p> <p>大阪学院大学との連携授業 (PBL)*</p>	<p>関西大学との連携授業 (PBL)</p>	<p>関西大学との連携授業 (PBL)</p> <p>大阪大学学生と意見交換会</p>	<p>大阪大学大学院と連携し、ワークショップを実施</p> <p>大阪学院大学学生のインターンシップ受入れ ほか</p>	
<p>水道事業 経営審議会*</p>  <p>第14次吹田市水道事業経営審議会の様子</p>	4回開催	4回開催	1回開催	2回開催	3回開催	



水道事業に関する市民アンケート調査を実施しました！！

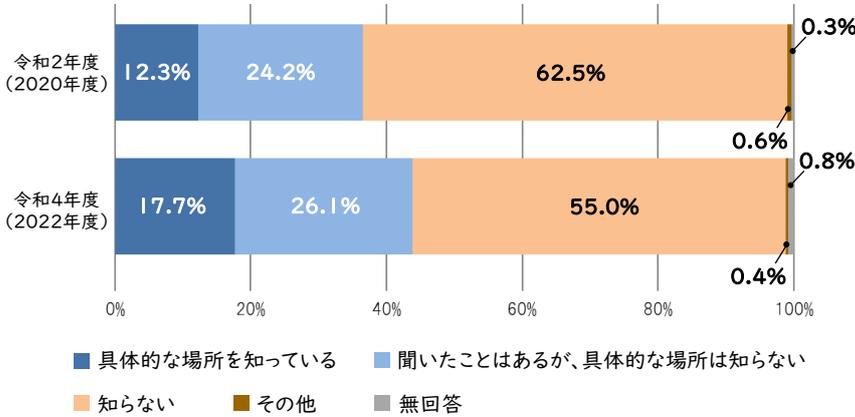
対象 吹田市に在住する18歳以上85歳未満の方 2,000人

アンケート結果

回答数 1,054人(回答率 53%)



「災害時給水拠点」「災害時給水所」の認知度



令和2年度と比較して

「具体的な場所を知っている」が5.4ポイント高い 「知らない」が7.5ポイント低い

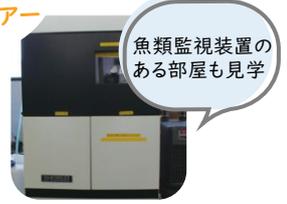
「災害時給水拠点」や「災害時給水所」について、広報誌やホームページに掲載したり、防災訓練ですすい防災手帳を配付するなど、認知度向上に取り組んだよ



水道マイスターを開催しました！！

● ちょっと特別な浄水所見学ツアー

泉浄水所で安心・安全な水道水が作られるまでの工程を見学



魚類監視装置のある部屋も見学



● 実験教室

淀川の水や薬品を使って、水をきれいにする実験



● 漏水修理体験、応急給水体験

水道管の破損による漏水の修理や災害時などに水道水が出なくなった時の応急給水を体験



マイスターの証 (缶マグネット) 作成



(2) 市民サービス充実の取組状況

平成

1994年～
2019年

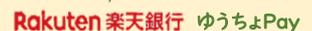
- 平成6年(1994年)3月 小規模受水槽無料点検サービス開始
- 平成19年(2007年)10月 口座振替割引制度開始(1回50円) 郵便局・コンビニエンスストア収納開始
- 平成20年(2008年)11月 高齢者宅の水道の無料相談・点検開始
- 平成22年(2010年)10月 口座振替割引制度拡充(1回50円から100円に増額)
- 平成28年(2016年)4月 高齢者世帯声掛けサービス開始 認知症サポーターの取組開始
- 平成31年(2019年)3月 水道の閉開栓のインターネット受付サービス開始



令和

2020年～

- 令和2年(2020年)4月 水道料金のスマートフォン決済開始
- 令和3年(2021年)4月 水道料金のスマートフォン決済の拡充(その1)
- 令和3年(2021年)10月 水道料金のスマートフォン決済の拡充(その2)



(3) 各事業における実績と評価

基本方針「地域」の下に推進している6の事業について、令和4年度の実績と評価を記載しています。

※優位性について、数値が高い方が望ましい場合「↑」/ 数値が低い方が望ましい場合「↓」

評価
4段階

- A: 計画どおりに進んだ
- B: おおむね順調に進んだ
- C: やや遅れている
- D: 遅れており、取組強化が必要

アクションプラン (R2~R7)

- 方針Ⅳ 吹田らしさを活かした市民に身近な水道事業
- 施策Ⅰ 使う人に便利で快適なサービスを
- 事業(1) 料金に係るサービスの充実

【事業目的】
インターネットやスマートフォンアプリ等を用い、より利便性の高いサービスの検討、導入に取り組みます。
また、従来から実施している高齢者声掛けサービスや認知症サポーターの取組を継続するとともに、電子申請による閉鎖栓受付やコンビニ収納、口座引制度等の周知に努めます。

取組	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
各種手続き等の利便性向上 (新サービスの検討、実施等)	・電子決済の開始			・クレジットカード決済開始		
高齢者声掛けサービス等の実施			・認知症サポーター養成講座実施			

実績と評価

水道料金支払に関する利便性向上のため、令和5年度からクレジットカード決済が可能となるようシステム開発に取り組みました。
高齢者声掛けサービスや認知症サポーターの取組を引き続き、実施しました。また、認知症について正しく理解するため、検針員などを対象に認知症サポーター養成講座を実施しました。

評価
A

アクションプラン (R2~R7)

- 方針Ⅳ 吹田らしさを活かした市民に身近な水道事業
- 施策Ⅰ 使う人に便利で快適なサービスを
- 事業(2) 給水装置の維持管理に係るサービスの充実

【事業目的】
高齢者が水道を安心して使用できるためのサービスとして、職員が高齢者宅を訪問し、水道に関する相談、点検を引き続き実施します。また、市民からの相談や苦情について部内で情報共有し、改善に努めます。
そのほか、10m³以下の受水槽の点検等、水道水を安心して使用していただくための取組を進めます。

取組	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
高齢者宅の水道相談・点検	実施					
給水相談への対応の充実	充実					
管理指標						
項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
水道事業に対する苦情対応割合	0.5件/1,000件	0.5件/1,000件	0.5件/1,000件	0.5件/1,000件	0.5件/1,000件	0.5件/1,000件

実績と評価

窓口や電話での問合せの件数は4,638件でした。多岐にわたる問合せ内容に、より効率的かつ迅速に対応するため、問合せ内容を整理しました。
高齢者宅に職員が訪問し、水道に関する相談・点検を実施しました。(229件)
じゃ口周りの点検や簡単な漏水調査など、水道についての相談に丁寧に対応し、高齢者が安心して水道を使用できるように努めました。

管理指標の数値

水道事業に対する苦情対応割合
優位性 ↓ 0.3件/1,000件

評価
A

アクションプラン (R2~R7)

- 方針Ⅳ 吹田らしさを活かした市民に身近な水道事業
- 施策Ⅰ 使う人に便利で快適なサービスを
- 事業(3) 水道水質に係るサービスの充実

【事業目的】
水道使用者からの水道水の水質に関する相談等に対し、じゃ口から出る水道水の水質検査を行うとともに、検査結果や対応に関する情報提供により、水質への不安解消に努めます。また、鉛製給水管に対する水質検査についても、適切に対応します。

取組	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
水質不安解消の取組	実施					
	・水質検査、検査結果の情報提供等					

実績と評価

水道使用者から、水道水の水質に関する相談や問合せが55件ありました。うち22件は相談者宅に伺い水質検査を実施しました。
水質検査結果については、ホームページを毎月更新しており、水道水の水質に対する不安の解消に取り組みました。また、水質に関連する項目で市民の関心が高いものについては、ホームページ(水質についてのQ&A)に適宜掲載し、情報発信に努めていきます。

評価
A

アクションプラン (R2~R7)

方針Ⅳ 吹田らしさを活かした市民に身近な水道事業

施策2 市民といっしょに水道を考える

事業(1) 多様な手段による広報の充実

【事業目的】
多くの市民に取組や事業内容を周知・PRするために、広報誌やホームページのより一層の充実を図るとともに、SNS等を活用し、災害時等において断水状況や応急給水などの重要な情報を迅速に提供します。
イベントや出前授業、いどばた会議等地域に足を運び水道事業に関して説明、PRする取組を進めます。
取組対象や内容を明確にして戦略的な広報に努めます。

取組	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
広報戦略の策定	検討	策定	運用			
多様な手段による情報発信	実施		広報戦略に基づく広報の推進			
職員が地域に行く情報発信	実施 ・出前授業、出前講座、水道いどばた会議等					
項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
管理指標 若年層のすいどうにゆーすの読書率	—	—	28.0%	—	29.2%	—

※令和3年度に策定した広報戦略「広報コンパス5D」に基づき、管理指標を見直しました。

実績と評価

令和2年度に実施した市民アンケートの結果、特に若年層の水道事業の認知度が低かったことから、広報誌に掲載する内容やイベントの工夫、SNSの活用などにより若年層への情報発信を図りました。また、管理指標を見直し、若年層のすいどうにゆーすの読書率を目標設定しました。

コロナ禍の影響により令和3年度は開催を中止した、「夏休み めぎせ!水道マイスター」を開催しました。また、水道水の飲用促進のPRを目的に導入した、移動式冷水給水機「スイスイサーバー」を活用し、本市が主催するイベントや地域のイベントにおいて、水道水の安全性などのPRを行いました。

管理指標の数値

若年層のすいどうにゆーすの読書率

優位性 ↑ 21.7%

評価
B

アクションプラン (R2~R7)

方針Ⅳ 吹田らしさを活かした市民に身近な水道事業

施策2 市民といっしょに水道を考える

事業(2) 市民参画の推進による広聴の充実

【事業目的】
事業経営に関する重要事項については諮問機関である水道事業経営審議会の意見に基づき検討を行うなど市民参画の推進に努めます。
定期的に市民アンケートを実施し、水道部の取組や水道水に対する市民意識について情報収集と分析を行い、事業評価等に活用します。

取組	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
水道事業経営審議会の開催	実施					
アンケートの実施・活用	実施・分析 (無作為抽出)		実施・分析 (無作為抽出)		実施・分析 (無作為抽出)	
大学との連携	実施					
項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
管理指標 市民満足度	91.8%	92.1%	92.4%	92.7%	93.0%	93.3%

実績と評価

令和4年度に実施した市民アンケートでは、QRコードを活用したweb回答と郵送回収を併用しており、回答に当たっての利便性向上やアンケート集計の効率化を図りました。

市内にある大学の授業に参加し、水道事業に関する理解向上に取り組みました。また、学生に水道部の広報を実践的に学んでもらうことを目的として、インターンシップを実施しました。

管理指標の数値

市民満足度

優位性 ↑ 93.1%

評価
A

アクションプラン (R2~R7)

方針Ⅳ 吹田らしさを活かした市民に身近な水道事業

施策2 市民といっしょに水道を考える

事業(3) フューチャー・デザインの取組

【事業目的】
将来世代の視点で施策を考える「フューチャー・デザイン」について、職員を対象とした研修やグループワークを行い意識醸成を図るとともに、市民参画による「フューチャー・デザイン」を用いた施策の検討に取り組みます。

取組	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
フューチャー・デザインによる水道事業経営の検討	実施 ・部研修	調査、研究	制度設計 検討	制度設計		

実績と評価

長期的な視点で水道事業を経営するに当たり、将来世代の視点から現在の計画などを考える「フューチャー・デザイン」の手法を取り入れることを検討しています。

そのため、今後の計画策定などの担い手として、長期的な視点で施策を見直す能力を有した若手、中堅職員の育成を図ることを目的に、研修の一環で、大阪大学大学院工学研究科の原研究室と連携し、ワークショップを実施しました。また、市民2,000人を対象に本市の持続可能な水道事業の実現に向けた市民アンケート調査を同研究室と共同実施しました。

評価
A



第3章

経営指標の状況

1. 収益性(収支の状況)に関する項目

2. 財務比率に関する項目

3. 施設の効率性(稼働状況)に関する項目

4. 生産性(職員数と事業の状況との関係)に関する項目

5. 料金に関する項目

6. 費用に関する項目

グラフの凡例

■ 数値 … 吹田市数値

▨ 数値 … 全国平均値
(令和3年度(2021年度)数値まで)

▨ 数値 … 類似都市平均値
(令和3年度(2021年度)数値まで)
類似都市は、給水人口30万人以上の市

優位性 ・ 単位



優位性について

数値が高い方が望ましい場合「↑」
数値が低い方が望ましい場合「↓」
いずれとも示せない場合「—」

1. 収益性(収支の状況)に関する項目

— 経常収益対経常費用比率 —

優位性・単位

↑ %

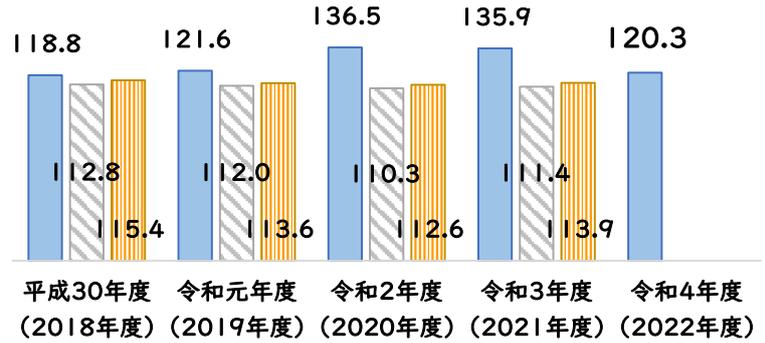
計算式

$$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$$

水道事業収益、水道事業費用から特別利益、特別損失を除いた、経常的な収支の比率です。

100%を下回る場合は、経常損失(赤字)が生じていることになります。

令和4年度(2022年度)は、前年度と比較して経常費用が11.5%増加したことから、指標の値は15.6ポイント減少しました。



— 営業収益対営業費用比率 —

優位性・単位

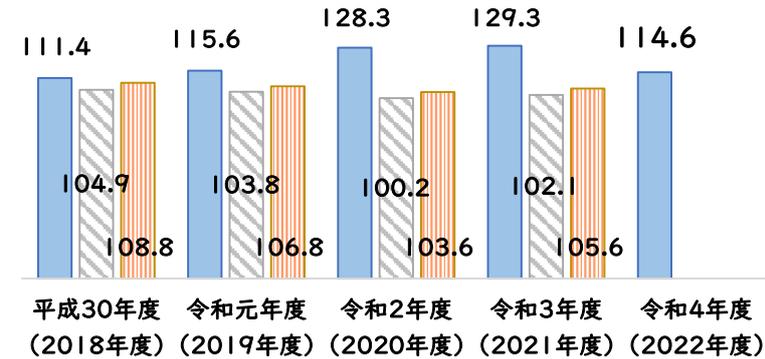
↑ %

計算式

$$\frac{\text{営業収益} - \text{受託工事収益等}}{\text{営業費用} - \text{受託工事費等}} \times 100$$

通常の営業活動における収益と費用の比率です。この比率が100%を下回ると、通常の営業活動で損失(赤字)が生じていることになります。

令和4年度(2022年度)は、営業費用(分母)が11.9%増加したのに対し営業収益(分子)は0.7%減少となりました。減価償却費や固定資産除却費が大幅に増加したことなどにより費用が増加し、指標の値は14.7ポイント減少しました。



2. 財務比率に関する項目

— 自己資本構成比率 —

優位性・単位

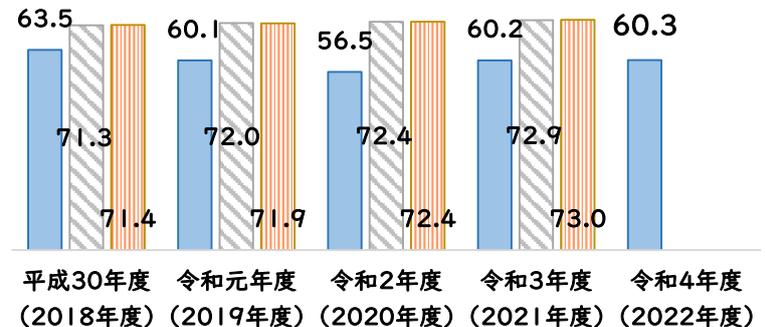
↑ %

計算式

$$\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益}}{\text{負債資本合計}} \times 100$$

総資本に占める、返済負担のない自己資本の比率を示しています。この値が高いほど経営が安定しており、低い場合は企業債の返済負担が高く、財政状況は不安定となります。

令和4年度(2022年度)は、負債が2.0%増加したものの、資本金が7.7%増加したため、指標の値は0.1ポイント増加しました。



— 固定資産構成比率 —

優位性・単位

— %

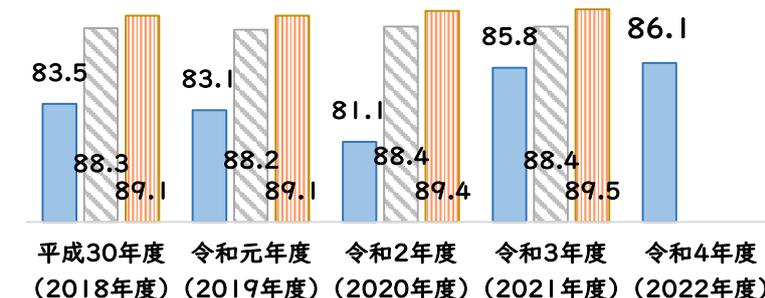
計算式

$$\frac{\text{固定資産}}{\text{資産合計}} \times 100$$

総資産に対する固定資産の割合を示しています。水道事業は装置産業であることから、全国的に高い値となっています。

本市が全国平均に比べ低いのは、施設の延命化を図ってきたことが要因として挙げられます。

令和4年度(2022年度)は、資産合計の増加に対し、固定資産の増加幅が大きかったため、指標の値は0.3ポイント増加しました。



3. 施設の効率性(稼働状況)に関する項目

施設利用率

優位性・単位

↑ %

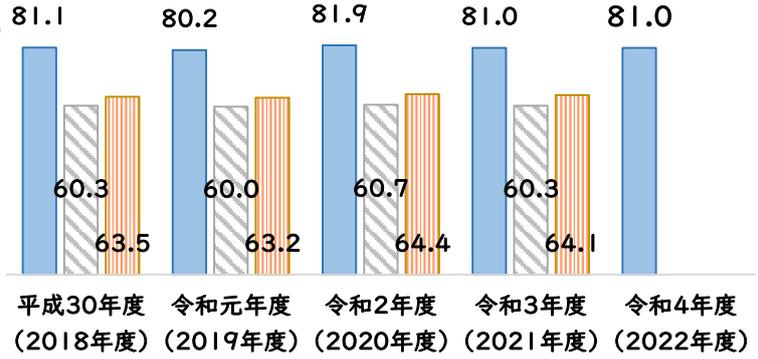
計算式

$$\frac{\text{1日平均配水量}}{\text{配水能力}} \times 100$$

施設の配水能力に対する1日平均配水量の比率で、施設の利用状況を見る指標です。高いほど施設が有効に利用されていることとなります。

平成28年度(2016年度)の変更認可に伴い、1日当たりの配水能力を155,100m³から141,000m³としました。

令和4年度(2022年度)は、前年度と比較して1日平均配水量がほぼ横ばいであったため、指標の値も横ばいとなりました。



最大稼働率

優位性・単位

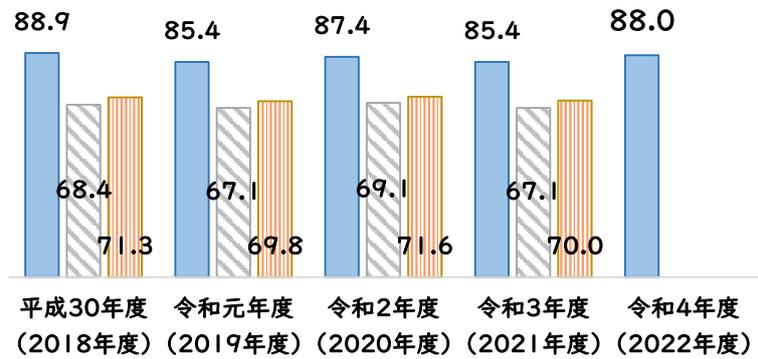
↑ %

計算式

$$\frac{\text{1日最大配水量}}{\text{配水能力}} \times 100$$

施設の配水能力に対する1日最大配水量の比率で、施設能力の適否を見る指標です。100%を超える場合は、配水能力が不足していることとなります。また、逆に100%を大きく下回る場合は、施設の過大投資に陥っていることとなります。

令和4年度(2022年度)の1日最大配水量は、124,122m³で、前年度と比較して3.1%増加したため、指標の値は2.6ポイント増加しました。



4. 生産性(職員数と事業の状況との関係)に関する項目

職員1人当たり給水量

優位性・単位

↑ m³

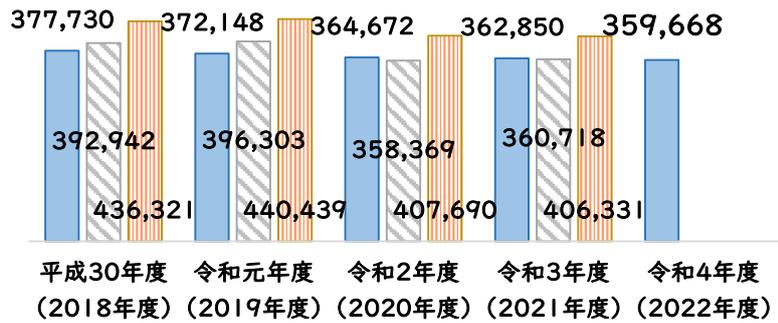
計算式

$$\frac{\text{年間総有収水量}}{\text{損益勘定所属職員数}}$$

「有収水量」は、浄水所及び配水場から送り出された水が、メーターで計量されて、料金収入に結びついた水量です。

職員1人当たりの有収水量は業務効率等の労働生産性を示す指標です。

令和4年度(2022年度)は、前年度と比較して職員数が横ばいであるのに対し、有収水量が減少したため、指標の値は減少しました。



職員1人当たり給水収益

優位性・単位

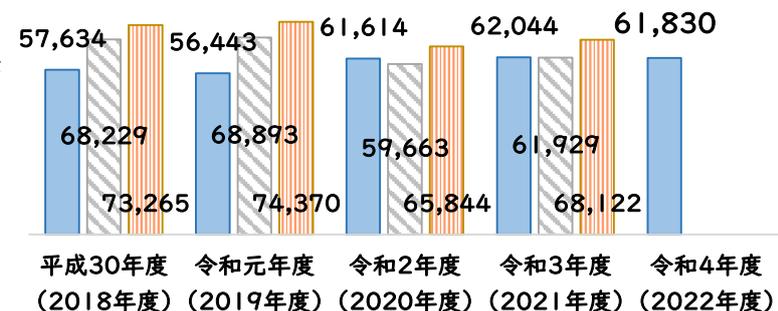
↑ 千円

計算式

$$\frac{\text{給水収益}}{\text{損益勘定所属職員数}}$$

損益勘定職員一人当たりの給水収益を示すもので、水道事業における生産性について給水収益を基準として把握するための指標です。

令和4年度(2022年度)は、前年度と比較して給水収益が0.3%減少したことから、指標の値は減少しました。



5. 料金に関する項目

供給単価

優位性・単位

— 円

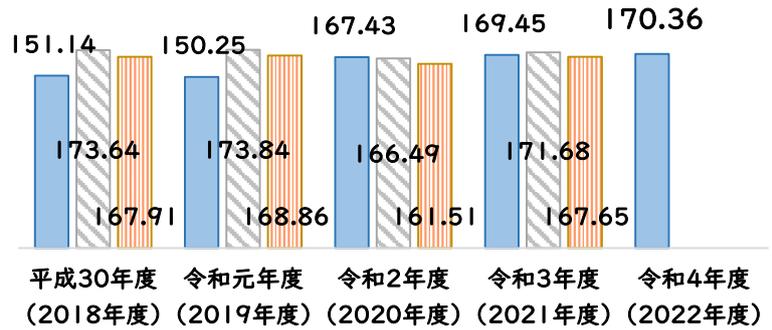
水道水1㎡当たりの平均販売単価を示します。

下欄の「給水原価」を下回る場合は「販売損失」が生じていることになります。

令和4年度(2022年度)は、前年度と比較して91銭(0.5%)増加しました。下欄の給水原価が前年度と比較して16円96銭(12.4%)上回ったことから、水道水1㎡当たり16円94銭の販売利益となりました。

計算式

$$\frac{\text{給水収益}}{\text{年間総有収水量}}$$



給水原価

優位性・単位

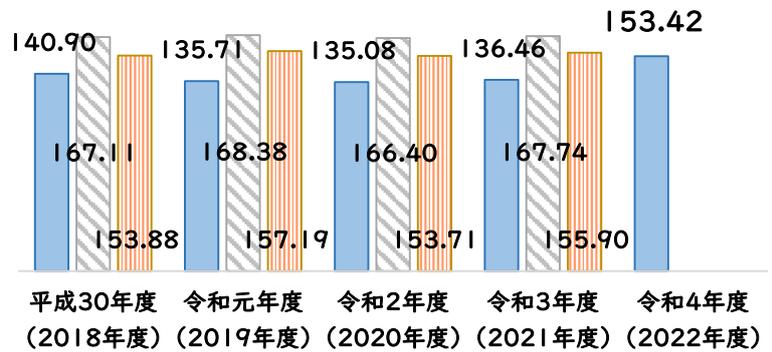
↓ 円

水道水1㎡当たりの平均製造費用を示します。

令和4年度(2022年度)は、前年度と比較して有収水量が減少し、経常費用が11.5%増加したことから、給水原価が16円96銭(12.4%)増加しました。

計算式

$$\frac{\text{経常費用} - \text{受託工事費等} - \text{長期前受金戻入} - \text{見合いの減価償却費等}}{\text{年間総有収水量}}$$



6. 費用に関する項目

企業債償還額対給水収益比率

優位性・単位

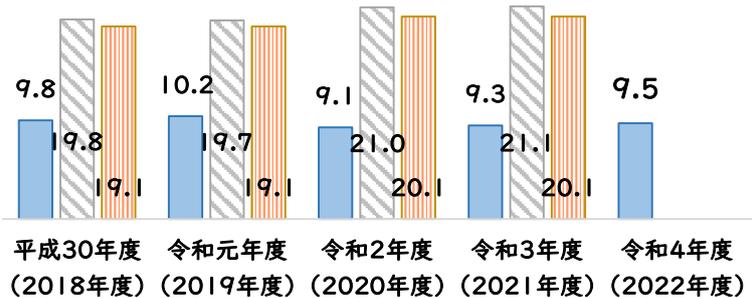
↓ %

企業債の元金償還額と料金収入の関係を示します。企業債返済負担の相対的な大きさを示し、事業規模に対して企業債発行額の適否をみる指標です。

令和4年度(2022年度)は、前年度と比較して給水収益が減少し、償還元金が増加したことから、指標の値は0.2ポイント増加しました。

計算式

$$\frac{\text{企業債償還元金}}{\text{給水収益}} \times 100$$



職員給与費対給水収益比率

優位性・単位

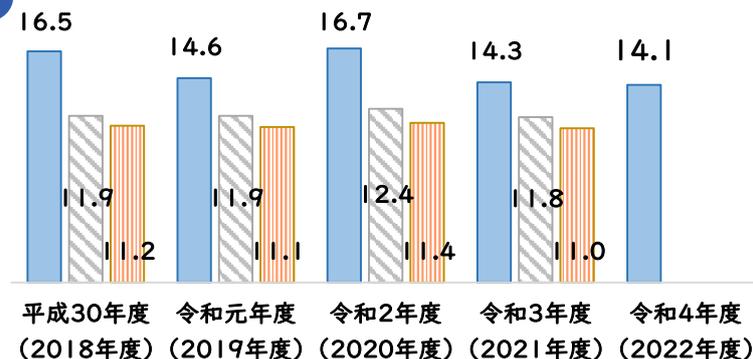
↓ %

職員給与費の相対的な大きさを示し、この比率が高くなると、固定費の割合が増え、経営悪化につながる要因となります。

令和4年度(2022年度)は、前年度と比較して職員給与費が減少したことに加えて、受託給与費等が増加したことから、指標の値は0.2ポイント減少しました。

計算式

$$\frac{\text{職員給与費} - \text{受託給与費等}}{\text{給水収益}} \times 100$$



参考資料

資料1

建設改良工事の概況

資料2

「すいすいビジョン2029」管理指標

資料3

用語集



浄配水施設・設備改良事業

(税込)

工 事 名	工事費	着工年月日	完成年月日	備 考
佐井寺配水場受変電設備更新工事	円 48,870,800	令和 3.7.2	令和 4.9.9	令和3年度繰越工事
泉浄水所ろ過池操作盤更新工事	54,549,000	3.8.13	4.6.30	令和3年度繰越工事
蓮間高区・低区流量計等設置工事	23,012,000	3.8.27	4.4.28	令和3年度繰越工事
佐井寺配水場受水弁・緊急遮断弁更新工事(機械工事)	20,709,700	3.12.10	4.7.29	令和3年度繰越工事
片山浄水所場内整備工事	224,279,730	4.1.21	(7.7.31)	令和3~7年度 債務負担行為
さく井掘削工事	96,446,900	4.3.25	5.3.31	令和3年度繰越工事
津雲配水場場内管耐震化等整備工事(追加工事)	63,423,800	4.3.29	4.9.30	令和3年度繰越工事
津雲配水場太陽光発電設備設置工事	3,611,700	4.10.26	(6.2.29)	令和4~5年度 債務負担行為
片山浄水所場外井戸掘削工事	54,766,600	4.11.21	(5.5.31)	令和4年度繰越工事

工事費 計①

589,670,230 円

送配水管布設工事・基幹管路整備事業

工 事 名	工事費	着工年月日	完成年月日	布設延長	備考
蓮間高区・低区配水幹線布設等工事	円 282,420,600	令和 2.11.20	令和 4.5.31	m 550	令和2~3年度 債務負担行為 令和3年度繰越工事
山田丘配水管布設工事	76,946,750	3.11.12	4.6.30	220	令和3年度繰越工事
都市計画道路十三高槻線配水管布設工事(正雀工区)(その3)	46,036,493	3.12.27	4.8.31	268	令和3年度繰越工事
南千里・片山送水管布設工事(片山工区)	380,377,800	4.1.25	(7.2.28)		令和3~6年度 債務負担行為
千里山送水管布設工事	114,921,249	4.3.8	(5.9.29)		令和3~4年度 債務負担行為 令和4年度繰越工事
山田丘配水管布設工事	68,377,000	4.8.2	(5.12.25)		令和4年度繰越工事
朝日が丘町ほか配水管布設工事	26,225,100	4.9.14	5.3.17	44	
津雲低区配水幹線布設工事	90,001,106	4.9.22	5.3.20	256	
津雲台1丁目ほか配水管布設工事	61,651,220	4.10.13	(5.5.10)		令和4~5年度 債務負担行為
山田丘配水管布設工事跡道路本復旧工事	8,944,100	4.10.18	5.1.25		

工事費 小計① 1,155,901,418 円

布設延長 小計①

1,338 m

送配水管布設工事・配水支管整備事業
経年管更新事業

工 事 名	工事費	着工年月日	完成年月日	布設延長	備考
	円	令和	令和	m	
日の出町配水管φ50mm～φ150mm布設替工事	24,475,600	3.11.5	4.5.10	331	令和3年度繰越工事
江坂町5丁目ほか配水管φ100mm～φ250mm布設替工事	150,752,690	3.12.14	4.10.11	811	令和3～4年度債務負担行為
山田西3丁目配水管φ100mm～φ200mm布設替工事(その2)	144,378,300	4.2.22	5.2.14	1,359	令和3～4年度債務負担行為
南吹田5丁目配水管φ100mm～φ200mm布設替工事	103,785,000	4.3.9	5.1.10	970	令和3～4年度債務負担行為
垂水町2丁目配水管φ75mm布設替工事	13,132,900	4.5.30	4.8.22	70	
寿町1丁目ほか配水管φ100mm～φ150mm布設替工事	73,009,498	4.5.31	5.1.25	455	
古江台6丁目ほか配水管φ100mm～φ200mm布設替工事	104,436,200	4.6.3	5.2.27	769	
寿町2丁目ほか配水管φ50mm～φ150mm布設替工事	60,353,700	4.6.17	4.11.14	577	
千里丘中配水管φ75mm～φ150mm布設替工事	64,024,400	4.7.8	4.12.5	606	
千里山竹園2丁目ほか配水管φ100mm～φ150mm布設替工事	75,403,900	4.7.11	5.1.23	293	
泉町1丁目配水管φ75mm～φ100mm布設替工事	39,636,300	4.9.2	5.2.28	338	
山田東4丁目ほか配水管φ50mm～φ150mm布設替工事	45,809,500	4.9.20	5.3.15	318	
穂波町ほか配水管φ100mm～φ150mm布設替工事	57,173,600	4.10.4	5.3.24	279	
川岸町配水管φ100mm～φ150mm布設替工事	47,635,500	4.10.14	5.3.17	397	
山田西1丁目配水管φ100mm～φ200mm布設替等工事	45,355,731	4.10.21	5.3.24	337	
青山台1丁目配水管φ100mm～φ200mm布設替等工事	13,705,998	4.10.24	(5.9.28)		令和4～5年度債務負担行為
垂水町3丁目配水管φ100mm布設替工事	28,497,150	4.10.26	(5.8.21)		令和4～5年度債務負担行為
江の木町配水管φ100mm～φ200mm布設替工事	47,034,900	4.10.27	(5.12.11)		令和4～5年度債務負担行為
竹谷町配水管φ75mm～φ150mm布設替工事	33,323,000	4.11.9	(5.5.22)		令和4年度繰越工事
日の出町配水管φ50mm～φ100mm布設替工事	26,207,500	4.11.16	5.3.15	188	
南吹田5丁目配水管φ100mm～φ200mm布設替工事跡道路本復旧工事	20,541,400	4.2.14	4.5.24		令和3～4年度債務負担行為
南吹田2丁目配水管φ75mm～φ200mm布設替工事跡道路本復旧工事	24,198,900	4.2.28	4.6.7		令和3～4年度債務負担行為
岸部北2丁目ほか配水管φ50mm～φ150mm布設替工事跡道路本復旧工事	18,759,400	4.6.24	4.9.16		
幸町配水管φ50mm～φ150mm布設替工事跡道路本復旧工事	29,729,700	4.8.9	4.11.16		

送配水管布設工事・配水支管整備事業
経年管更新事業

工 事 名	工事費	着工年月日	完成年月日	布設延長	備考
山田西3丁目配水管φ100mm～φ200mm布設替工事跡道路本復旧工事(その1)	円 43,689,800	令和 4.9.1	令和 5.1.10	m	
末広町配水管φ75mm布設替工事跡道路本復旧工事	7,040,000	4.9.5	4.12.13		
穂波町配水管φ100mm～φ300mm布設替工事跡道路本復旧工事(その1)	54,112,300	4.9.6	5.2.15		
南金田1丁目ほか配水管φ100mm～φ200mm布設替工事跡道路本復旧工事	45,641,200	4.9.29	5.2.17		
穂波町配水管φ100mm～φ300mm布設替工事跡道路本復旧工事(その2)	30,305,000	4.10.5	5.1.12		
山田西3丁目配水管φ100mm～φ200mm布設替工事跡道路本復旧工事(その2)	38,633,100	4.10.12	5.3.17		
垂水町2丁目配水管φ75mm布設替工事跡道路本復旧工事	3,489,200	4.11.15	5.2.7		
春日2丁目ほか配水管φ75mm～φ150mm布設替工事跡道路本復旧工事	21,760,200	4.11.24	5.3.24		
日の出町配水管φ50mm～φ150mm布設替工事跡道路本復旧工事	12,622,500	4.12.6	5.3.31		

工事費 小計② 1,548,654,067 円
布設延長 小計② 8,098 m

配水支管新設事業

工 事 名	工事費	着工年月日	完成年月日	布設延長	備考
桃山台5丁目ほか配水管φ150mm～φ300mm布設工事	円 61,428,510	令和 4.7.15	令和 (6.3.15)	m	令和4～5年度 債務負担行為
岸部北5丁目配水管φ100mm布設工事跡道路本復旧工事	6,184,200	4.12.12	5.3.16		

工事費 小計③ 67,612,710 円

工事費 計⑥

2,772,168,195 円 (①+②+③)

建設改良工事費 合計

3,361,838,425 円 (A+B)

布設延長 合計

9,436 m (①+②)

※負担金工事に設計委託等は含みません。

管理指標

安全

～安全で安心できる水道水の供給～

優位性

↑:数値が高い方が望ましい
↓:数値が低い方が望ましい



項目	単位	優位性	※1 PI	積算方法	基準年度	実績		計画	※2 PI公表類似 団体平均
					平成30年度 (2018年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和4年度 (2022年度)	令和3年度 (2021年度)
水質基準不適合率	%	↓	-	(水質基準不適合回数/全検査回数)×100	0.0	0.0	0.0	0.0	-
水源確認回数	回	↑	-	水源の巡視等の回数	28	28	28	28	-
鉛製給水管率	%	↓	A401	(鉛製給水管使用件数/給水件数)×100	6.9	3.7	3.4	3.9	7.8
直結給水率	%	↑	A204 を援用	(直結給水戸数/(直結給水戸数+受水槽戸数))×100	70.1	72.6	73.1	72.1	-
小規模貯水槽水道点検率	%	↑	A205 を援用	(小規模貯水槽水道点検件数/小規模貯水槽水道数)×100	95.5	94.2	92.9	96.1	-

管理指標

強靱

～災害に強く、安定して供給できる
水道施設・体制の構築～

優位性

↑:数値が高い方が望ましい
↓:数値が低い方が望ましい



項目	単位	優位性	PI	積算方法	基準年度	実績		計画	PI公表類似 団体平均
					平成30年度 (2018年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和4年度 (2022年度)	令和3年度 (2021年度)
地下水源率	%	↑	-	(地下水量/年間総配水量)×100	11.1	11.2	12.6	13.8	-
基幹管路の耐震適合率	%	↑	B606-2	(基幹管路のうち耐震適合性のある管路延長/基幹管路延長)×100	48.5	53.3	55.0	55.4	54.6
重要給水施設管路耐震化適合率(箇所比)	%	↑	-	(管路の耐震適合性を有する重要給水施設箇所数/重要給水施設箇所数)×100	8.7	21.7	23.2	13.0	-
法定耐用年数超過管路率	%	↓	B503	(法定耐用年数を超過している管路延長/管路延長)×100	37.7	38.0	38.8	38.8	26.3
管路の更新率	%	↑	B504	(更新された管路延長/管路延長)×100	0.91	1.35	1.20	1.22	0.74
配水池点検率	%	↑	-	(劣化診断等の点検を実施した配水池数/総配水池数)×100	0.0	36.4	54.5	54.5	-
応急給水施設数	箇所	↑	B611 を援用	配水池・緊急貯水槽・組立式貯水槽等の設置箇所数	21	45	45	45	-

管理指標

持続

～将来にわたり持続可能な
水道事業の経営～

優位性

↑:数値が高い方が望ましい
↓:数値が低い方が望ましい



項目	単位	優位性	PI	積算方法	基準年度	実績		計画	PI公表類似 団体平均
					平成30年度 (2018年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和4年度 (2022年度)	令和3年度 (2021年度)
経費(料金)回収率	%	↑	C113	(供給単価/給水原価)×100	107.3	124.2	111.0	112.8	107.6
給水原価	円/m ³	↓	C115	(経常費用-(受託工事費等+長期前受金戻入見合いの減価償却費等))/有収水量	140.9	136.5	153.4	148.9	128.5
流動比率	%	↑	C118	(流動資産/流動負債)×100	199.2	261.4	290.2	194.4	260.5
給水収益に対する企業債残高の割合	%	↓	C112	(企業債残高/給水収益)×100	187.1	258.8	273.0	283.6	267.7
研修時間(内部+外部)	時間/人	↑	C203 を援用	(職員が研修を受けた時間×受講人数)/全職員数	22.4	15.7	24.6	23.2	-
配水量1m ³ 当たり電力消費量	kWh/m ³	↓	B301	年間電力消費量/年間配水量	0.25	0.25	0.27	0.28	0.30
有収率	%	↑	B112	(年間有収水量/年間配水量)×100	95.9	96.7	95.7	95.8	91.6

管理指標

地域

～吹田らしさを活かした
市民に身近な水道事業の運営～

優位性

↑:数値が高い方が望ましい
↓:数値が低い方が望ましい



項目	単位	優位性	PI	積算方法	基準年度	実績		計画	PI公表類似 団体平均
					平成30年度 (2018年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和4年度 (2022年度)	令和3年度 (2021年度)
水道事業に対する苦情対応割合	件/1,000件	↓	C504 を援用	水道事業に対する苦情対応件数/(給水件数/1,000)	-	0.4	0.3	0.5	-
※3 若年層のすいどうにゅーすの読書率	%	↑	-	(若年層の「読んだことがある」の回答数/若年層のアンケート回答総数)×100	26.7	-	21.7	28.0	-
市民満足度	%	↑	-	(「満足している」等の回答数/アンケート回答総数)×100	91.2	※4 (100.0)	93.1	92.4	-

※1 PI=Performance Indicator

日本水道協会が平成17年(2005年)1月に制定し、平成28年(2016年)3月に改正した水道事業ガイドラインに定められている119項目の業務指標

※2 PI公表類似団体

給水人口30万人以上50万人未満、自己水比率30%以上100%未満で業務指標PI(JWWA Q100:2016)を公表している8事業体【福山市、一宮市、横須賀市、高崎市、前橋市、倉敷市、豊橋市、高槻市】

※3 若年層のすいどうにゅーすの読書率

令和3年度(2021年度)に策定した広報戦略「広報コンパス5D」に基づき、管理指標の項目を見直しました。また、基準年度の値は、令和2年度(2020年度)の実績値を採用しています。

※4 令和3年度(2021年度)の市民満足度

市民アンケート不実施のため、イベント等でのアンケート結果に基づき数値を算出しています。

	用語	解説
あ 行	依存水	水道用水供給事業者から浄水を購入し配水したもの。
	運転資金(残高)	経営を行うために必要な資金のこと。また、その資金の残高。
	大阪広域水道 企業団 (旧大阪府水道部)	大阪府水道部から事業継承し、平成23年(2011年)4月に事業を開始した。大阪市を除く府内全市町村共同経営する主に水道水の用水供給(卸売り)を行うための水道事業体。淀川のみを水源としている。
	アクションプラン	目標値や管理値を設定し、具体的に進める事業を定めた実行計画のこと。継続的な進捗管理と分析・評価を行い見直しを実施する。本計画では、計画期間を令和2年度(2020年度)から令和7年度(2025年度)までの6年間としている。
か 行	加入金	新規の水道利用者と現水道利用者との負担の公平を図るとともに水道施設の更新、維持費用の財源に充て、財政基盤の強化を図ることを目的として、新規や増径する給水装置工事の際に水道利用者から徴収するもの。
	広域連携	効率化を主目的に他事業者等と連携して業務を行うほか、所有する施設の共同使用や組織の統合を図ること。
	基幹管路	水道システムを構成する重要な役割を有する基幹的な管路。原水を浄水所に輸送する「導水管」、浄水を配水池まで輸送する「送水管」及び配水池から流出し配水支管に分岐するまでの「配水本管」で構成される。
	企業債(残高)	地方公営企業が証券を発行することによる債務又は証書借入れによる債務。建設、改良等収益を生ずる施設投資の財源に充てるために借り入れている。また、その残高。
	企業債残高対 給水収益比率	収益に対する企業債残高の割合を示すもので、企業債残高が規模及び経営に及ぼす影響を表す指標。
	給水収益	水道事業における営業収益のひとつで、本市では、水道料金収入がこれに当たる。
	給水人口及び 戸数	給水区域内に居住し、本市の上水道により給水を受けている人口と世帯数(戸数)。
	給水量 (有収水量)	給水区域に対して、水道使用者に供給する水量のうち、料金徴収の対象となる水量。
	減価償却費	固定資産の経年的な価値の減少を毎事業年度の費用として計上するもの。
	建設改良費	固定資産の新規取得又はその価値の増加のために必要な費用。
さ 行	自己水	自ら水源を確保し浄水処理するもの。
	資本的収入及び 支出	水道施設の建設や改良等の投資事業を行うことによって発生する収入と支出。

	用語	解説
さ 行	収益的収入及び支出	通常の水道事業経営を行うことによって経常的に発生する収入と支出。
	水道GLP	「Good Laboratory Practices」の略で水道水質検査における優良試験所規範のこと。水質検査を適正に実施し検査結果の信頼性を確保できていることなどについて、日本水道協会の審査により認定を受けるもの。
	水道いどばた会議	水道事業の現状や課題などを市民の方々に一緒にお考えいただくことを目的としたタウンミーティングで、本市独自の取組として平成30年度(2018年度)から行っている。
	水道事業経営審議会	市長の諮問に応じ、水道事業経営に関する重要事項について調査審議し、答申する外部委員の組織。水道事業経営に関する事項について、市長に意見を述べるができる。
	損益勘定留保資金	減価償却費などの現金支出を必要としない費用の計上により企業内に残る資金。
た 行	耐震化率	水道施設や管路が耐震化された割合のこと。
	耐震適合率	耐震適合性のある管路延長の割合を示すもの。耐震管に加え、管路の布設された地盤条件などを勘案して耐震性能が評価された管種・継手を含めたもの。
	地方公営企業	地方公営企業法に基づき、地方公共団体が経営する企業。企業性を発揮するとともに、公共の福祉を増進することを経営の基本原則とし、その経費は経営に伴う収入をもって充てる独立採算制を原則としている。
な 行	鉛製給水管	鉛製の給水管のこと。施工性の良さなどから、全国的に給水管の材料として広く使用され、本市では昭和51年(1976年)まで使用していたが、鉛の溶出による健康への影響が指摘されるようになり、既存の鉛製給水管の早期解消に取り組んでいる。
は 行	配水量	配水池などから配水管に送り出された水量。
	フューチャー・デザイン	「将来世代の視点から施策を考える」こと。近視的なものの見方から離れ、将来世代に生きる人間になりきって現世代の施策を考え、長期的にみて有益となる施策を見出すための取組。水道事業の持続可能性の向上に効果が期待できる。
や 行	有収率	総配水量に占める有収水量の割合。送り出した水が、どの程度料金収入に反映しているかを示すもの。
ら 行	連携授業(PBL)	行政等が抱える具体的な課題を学生自らが調査・研究し、解決策を見出すPBL(課題解決型)形式の授業のこと。 平成30年度(2018年度)から継続して実施されています。



SUITA
Public
Water
Utility

安全
強靱
持続
地域

すいすいレポート（令和5年度版）

発行 令和5年（2023年）11月

発行所 吹田市南吹田3丁目3番60号

吹田市水道部企画室

（電話） 06（6384）1253

（FAX） 06（6384）1902

